似ているけれど…　対照的！

白鳥庭園 vs 徳川園

@名古屋市熱田区　　@名古屋市東区

― 日本庭園と生物多様性　第３弾 ―

水辺の出来事	P. 1	チョウ	P. 29
庭園の構成／歩み	P. 3	野　鳥	P. 34
水辺の植物	P. 15	参考資料	P. 42
トンボ	P. 21	改　善 2017-18	P. 45

2019 年　3 月

モノサシなごや　検索

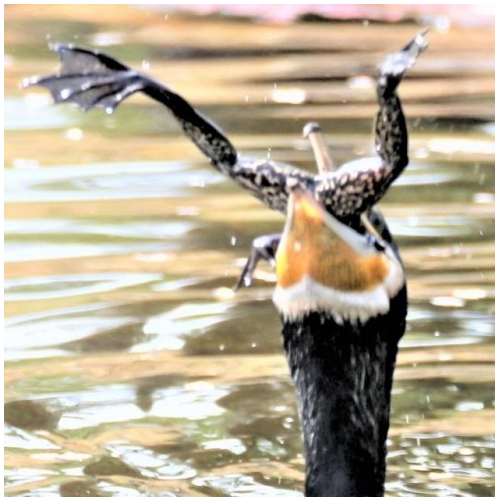
都市の自然のモノサシ研究会　http://blog.goo.ne.jp/monosashi758

水辺の出来事

白鳥庭園

スイレンの葉陰に潜むウシガエル。誰を狙っているのかな？（2018.0429）

トンボのヤゴを守るため
岸辺にコイ除けの柵を設けたら…
オタマジャクシの学校になってしまった。
（2018.0616）cf. P.45



鵜呑み!!　（2018.0401）
しかし…、大物を呑み込んだ後はさすがにシンドイらしく、岸でしばらく休んでいた。

徳川園

仲良きことは美しきかな。留鳥化しているマガモの親子。
（2018.0610）

ヒナが育つと、こんな顔＆毛並みになる。
（2014.0706）

アメンボに体液を吸われる
イトトンボ　(2018.0722)

イトトンボ類の交尾
(2016.0527)

ギンヤンマの産卵
(2018.0728)

コシアキトンボ　2018.0520

トンボの羽化

2018.0512　イトトンボ類

2019.0217　ツグミ、シメ

2018.0414　ハシボソガラス

キジバト　2018.0318

野鳥の吸水

スズメ　2018.0512

ムクドリ

モクズガニ（市・準絶滅危惧種）

汐入亭（食堂）南の水路に潜んでいました（2018.0609）。
堀川から這い上がってきたのでしょうか？

（上海ガニの仲間。　冬～初夏に海で繁殖 → 幼生は５回脱皮 → 大潮の夜に潮に乗って河川の感潮域へ遡上 → 稚ガニに変態 → 河川の淡水域に分散し、脱皮を繰り返しながら 2-3 年で成体に → 秋～冬に繁殖のため海へ下る）

ナミアゲハ　2018.0811

チョウの吸水

ｱｵｽｼﾞｱｹﾞﾊ　2018.0715

シジュウカラ　2018.0527

野鳥の行水

ドバト　2018.0825

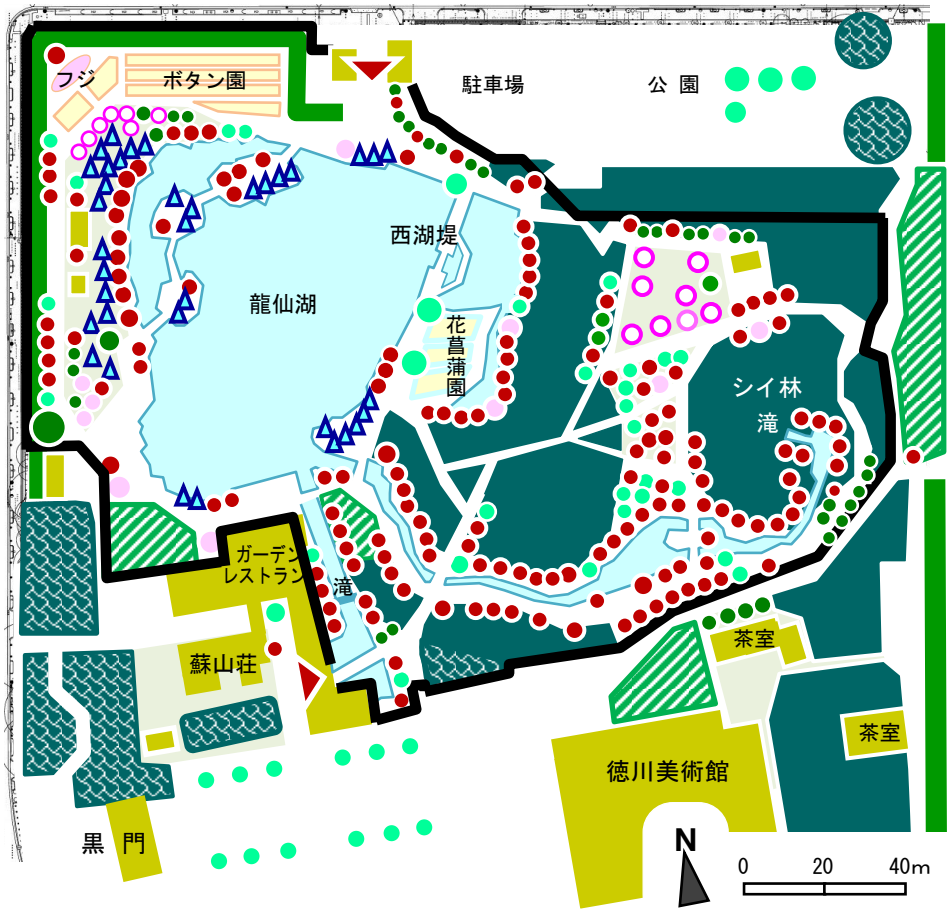
【写真：飯田康博、加藤正嗣、川口暢子】

庭 園 の 構 成

白 鳥 庭 園

- マツ
- その他の針葉樹
- タケ
- 常緑広葉樹
- ツバキ類
- サクラ
- ウ　メ
- その他の落葉花木
- モミジ
- その他の落葉広葉樹
- 生　垣
- 低木の植込み
- サ　サ
- 芝　生

徳　川　園



- 旧来の樹林の名残（シイ ＋ カシ等）
- 同　（クスノキ等）
- 同　（コナラ／ケヤキ等 ＋ マツ）
- 3−10m級の植栽（マツ）
- 同　（常緑広葉樹）
- 同　（常緑広葉樹の帯）
- 同　（モミジ）
- 同　（ウメ、アンズ、モモ）
- 同　（サクラ）
- 同　（その他の落葉広葉樹）

	白鳥庭園（1991 年 開園）	**徳 川 園**（2004 年 再整備・開園）
立地環境	**沖積低地**。　名古屋台地（熱田台地）の南端。 ルーツは、藩・国の**木曽ヒノキ貯木場**（江戸～昭和期）。 ◆かつては、熱田浜に面した堀川河口に位置した。 ◆現在は、堀川・白鳥公園・白鳥古墳に隣接し熱田神宮の森に近い。	矢田川の**河岸段丘**と**氾濫原低地**。　名古屋台地の東端。 ルーツは、**藩主の隠居屋敷**（元禄期）。 ◆かつては、周囲には武家屋敷や寺院があった。 ◆現在は、住宅やマンションに囲まれている。
コンセプト	木曽山地から濃尾平野を潤す豊潤で**多様な水の物語** ◆**木曽三川流域の自然**を縮景 木曽ヒノキのたどったルート（御嶽山～木曽川～伊勢湾～熱田） ◆**池泉と大きな築山**を設け、**多様な水域景観**を観賞しながら回遊	**近世武家文化**を中心に表現し、世界に発信する歴史文化拠点 ◆**尾張藩ご領地の海・山・里**をモチーフに表現 ◆大きな池泉を設け、**江戸時代から続く照葉樹林の山と池泉**を巡り**大名好みの名所**を観賞しながら回遊
概　況	有料区域面積：　**3.3ha**（敷地面積 3.7ha） 築山：　木曽五木の**針葉樹林**（御嶽山に見立て）。池との高低差 **9m**。 池　：　面積 **0.56ha**（いくつにも分かれている）、平均水深 **0.3**m。 渓流：　延長 **130**m、高低差 **5.5**m。 源流から河口部まで**自然形の流れ**（下流部は幅の広い緩流）。 石は、**面がとれ模様のある川石**。 水の供給源は、工業用水。 雄滝：　落差 **3**m、水量 **4** t /分。 雌滝：　落差 **2**m、水量 **2** t /分。	有料区域面積：　**2.1ha**（隣接樹林を含めると約 3ha） 山　：　**シイ林**（特別緑地保全地区 **1.2ha**）。池と山頂の高低差 **11m**。 池　：　面積 **0.48ha**（大きくまとまっている）、平均水深 **0.7**m。 渓流：　延長 **140**m、高低差 **3.7**m。 狭く**直線的な掘割形状**（中間に中溜り）。虎の尾と呼ばれる。 石は、**角張った固い大きな山石**。 水の供給源は、地下水（矢田川の伏流水）。 大曾根の滝：　落差 **6.3**m（3 段=**1.4**m／**3.2**m／**1.7**m）、水量 **3** t /分。
基本植生	**貯木場を全面的に埋め立て**て、敷地を造成。 園内の植物は、**すべて新植**。 モミジ 134 本 ／ サクラ 43 本 ／ ウメ 41 本 ／ アカマツ 139 本 ／ クロマツ 24 本 ／ ほか 外周の●照葉樹（クスノキ、シイ・カシ類）、築山の▲針葉樹、 渓流沿いの●モミジ、池畔のΔマツが、緑の骨組みを構成。 池の西岸の●シダレザクラ、▲モミノキの大木が景趣を添える。 築山の東には○梅林、池端の茶室に●モミジなど露地の植込み。 正門からの主園路は、大刈込と銀閣寺垣に挟まれて強調される。	**江戸・明治時代から続く樹林**（特別緑地保全地区）が園内に残存。 池や流れまわりなどは、新植。　龍門の滝遺構を再現。 モミジ 300 本 ／ サクラ 47 本 ／ ウメ 16 本 ／ アカマツ 1 本 ／ クロマツ 41 本 ／ ほか 段丘上にうっそうとした●シイ林（旧来の樹林）が広がり、 渓流には●モミジ、池畔にはΔマツが配されている。 山上では○ウメやアンズなどの疎林が、山里の趣を醸している。 段丘崖（池の南）には、かつてのΔマツ林の名残も見られる。 大名好みの植栽（牡丹園・菖蒲田・椿・花木・紅葉）が配されている。
備　考	京都人が培った心と技で**自然を誠実に表現した庭園** 【造園】　全体設計　吉村元男 ／ 材料･施工監理　川崎幸次郎 【建築（清羽亭）】　実施設計監理　中村昌生 ／ 茶室施工　安井杢	東京人が江戸時代の**大名庭園を再現した豪壮な庭園** 【造園】　設計･施工監理　伊藤邦衛 【建築(観仙楼)】設計監理　日建設計 ／【茶室(瑞龍亭)】設計監理　大關徹

白鳥庭園	徳 川 園

似ているけれど、 対照的 ！

庭園の規模 3ha 前後　／　山・渓流・池で構成。
山頂と池の高低差 10m前後　／　渓流の延長 100m余　／　池の面積 0.5ha 前後。
山は常緑樹林　／　渓流沿いにはモミジ　／　池畔にはマツ　／　山の一角にはウメなど里の風景　／　…　。

白鳥庭園と徳川園には、基本的な共通点が多い。
しかし、　・・・

◆築山（左上の針葉樹林）から山裾の園路や茶庭を経て、池へと段階的に下降。
　このため、高低差をあまり意識させない。
◆築山は、木曽五木の針葉樹林。 林床には、低木や草本類が密生。
　築山の東裾は日差しを受けやすく、明るい山里の風景。
◆渓流は、自然に近い複雑な形状（岩にぶつかり、しぶきをあげながら下る）。
　岩の隙間には多様な植物（急流部には湿生・渓岸植物、緩流部には水生植物）。
◆池はいくつにも分かれる（水際の形状が多様で、水際線も非常に長い）。
　このため、水辺植生が多様（特に、清羽亭西の緩流域、下の池）。

◆森（段丘上の既存樹林）と池が、ハッキリ分かれている。
　段丘崖と池が直接接しているため、高低差が強調されている。
◆大木の多い暗い森（昔からの照葉樹林）。 低木や草本類は乏しい。
　森の中央の空間は、明るい山里の風景。
◆渓流は、シンプルな形状（掘割形状の険しい谷を、一気に下る）。
　水辺植生はやや単調だが、昔からの樹林に囲まれているためシダ類が豊富。
◆池は大きくまとまっている。このため水際の形状も、水辺植生もスッキリ。
　ただし、西湖提周辺の環境は多様（浮葉植物＋樹林への連続）。

◆ 正門を入ると…

両側に背の高い植え込み。
右手は、銀閣寺垣（冬場の鳥の隠れ場）。
左の斜面には、大刈込（チョウが吸蜜）。

cf.　P.29、38

S 字の道を奥へ進むと…
やがて視界が開け、池が広がります。

◆ 黒門口を入ると…

橋が出迎え。
橋を渡れば、大木そびえる昔からの森。
橋の 5m 下は、渓流の流れる険しい谷。
左手には、松越しに池が垣間見えます。
・・・
いきなり高低差を体感！

◆ 築山は頭しか見えない

築山（正面奥の暗い緑）は、手前の樹木に隠れて頭の先を見せるだけ。
10m 近い高低差の存在は、感じません。

◆ 段丘がデーンと構える

段丘（正面）が屏風のように池の背後に連なり、強い存在感を示しています。

◆ 山道のような飛び石（渓流沿い）

◆ 木漏れ日のさす土の道（湖畔）

◆ 谷あいの舗装路（渓流沿い）

◆ 開放的な舗装路（湖畔）

【写真：浅井正明、岡本明子、加藤正嗣】

白鳥庭園

◆ 木曽五木の築山

築山は御嶽山に見立てられ、
木曽五木を中心に針葉樹を植栽。
林床には低木や草本類が密生。
山頂部の滝から迸る流れは
源流の風景を作っている。

一気に登るのはシンドイけれど…。
山頂へ向かう石段は、
龍に見立てて折れ曲がっている。

◆ 明るい梅林

築山の裾のウメやモモ、ナノハナが、里の風情を醸し出している。
菜の花は、ベビーカー世代に人気。 （*cf.* P.46）

徳 川 園

◆ 古くからのシイ林

江戸～明治期より、段丘上にシイノキ、アラカシ、モチノキなどの照葉樹が成育。
暗い森で、林床の植物は乏しい。
森の南の谷地形には、渓流沿いにモミジや山の木を植栽。

東区の名木スダジイ。
（樹高 26m内外、根回り４m内外とある）

◆ 明るい山里風景

段丘の中央部は明るい山里の風景（アンズ、ウメ、モモ、芝生地）。
茶屋風の東屋で憩うことができる。

丸みのある川石（揖斐石）を用い、
源流の雄滝から中流・下流を経て木曽三川の分流域に至るまで、
大石から小石まで多彩な石を水域に合わせて組み、
自然に近い多様な水の姿を作っている。 （*cf.* P.18~20）

岩場の波しぶき、緩やかでのどかな流れ、砂州や分流堤の脇を流れる様、…
流れの中に多種の植物を配し、雄大な流域の広がりを巧みに表現。
あくまで自然を写した水のストーリーが見られる。

◆源流：丸みのある 石組みの滝

重厚な石組みの滝（落差 3m）。
モミジが彩りをそえる。

◆中流：広がる岩場で 波しぶき

上流からの流れと雌滝が合流し、
中流の開けた風景を作る。

◆下流：水生植物の豊かな 緩い流れ

川幅が広がり、流れは緩やかになる。

◆分流堤：緑の護岸

流れは分流し、ほぼ静止水域となる。

切り立った山石（恵那石）で築いた３段落ちの滝が源流。
険しい谷地形を利用した**流れ**は、石護岸で固められた**直線的な掘割形状**。
上流部に沢飛び石、中ほどに中溜り（小さな池）を再現し、
流れの単調さを和らげている。 （*cf.* P.18~20）

流れの内には植物はほとんどないが、
渓流沿いには、
モミジやサワフタギなど景趣をそそる樹木が植栽されている。

◆源流：切り立った 石組みの滝

切立った石組みの滝（落差 6m）。
モミジや雑木で源流の風景を作った。

◆中流：護岸に挟まれ 一気に下る

谷地形に流れを掘り、
石畳の護岸を据えて親水感を演出。

◆下流：中流同様の 速い流れ

中流と同様の切り立った護岸。

◆河口部：石組み護岸

渓流・河口・池ともに護岸は石組み。

【写真：浅井正明、飯田康博、岡本明子、加藤正嗣、川口暢子】

白鳥庭園

３つに分かれた池が庭の中心部を取り巻くように配置され、
それぞれの池に島や半島、砂州や州浜が設えられている。
多くの木橋や土橋が架けられ、
池の汀線は複雑で池の様相を一目では判別しがたいが、
柔らかな石や水生植物が岸辺を覆っている。　（*cf.　P.15~18、21~24、35~38*）

静かな佇まいの上の池、
島と海を表す中の池、
湖沼をイメージする下の池と、それぞれ特色を出している。

◆上の池：土・石混在の護岸

柔らかな石が護岸や池中に…。

◆中の池：穏やかな石組み

島や岬が平面的な広がりを…。

◆下の池：樹林に囲まれた池

樹木が覆い、里の沼をイメージさせる。

◆林・池・草地が一体で…

下の池＆広場は、生き物の多いエリア。

徳 川 園

ほぼ方形の**大きくまとまった池**が掘られ、
底は玉石で、周囲は恵那石の**角張った護岸**が力強く組まれている。
このため**水際には、水生植物はほとんど見られない。**
西湖堤東の山際（森と池の接点）は、低めの川石で穏やかな石組みとなっている。
（*cf.　P.15~18、21~24、35~38*）

池内には三河湾に浮かぶ三つの島を見立てた島を築き、
石橋など３つの異なった橋でつなぐ。
地下水を汲み上げ、ろ過装置で浄化した水を多くのか所で放出している。

◆龍仙湖：切り石でかっちり固めた護岸

要所に切り立った護岸が目立つ。

広い水面を取り囲むように、固い石が並ぶ。

◆森と池の接点：穏やかな石組み

カワセミを見かけることも…。

◆龍門の滝＝段丘の高低差

池に注ぐ龍門の滝。

◆ 低く抑えた建築

水面と松を前景に、低く構えた木造建築。

水面に張り出し、水平線を強調する立礼席。

◆ 仰ぎ見る存在の建築

水面に姿を映す、鉄骨造の力強い建築。

崖の上から池を見下ろす、茶席と松。

◆ 木橋が主体

中ノ池に架かるいくつもの木橋。

建築や橋は木造で、水面と親近感がある。
建築は数寄屋造りで低く抑えられ、周辺の緑と一体感を保っている。
橋は、渓流や池に木橋（5）・土橋（3）・自然石の沢飛びが多数架けられ、風景に馴染んでいる。
建造物はあくまで自然に抗わず、主役の水の姿に寄り添っている。

建築は、水面から仰ぎ見る存在となっている。
上左側の観仙楼は、数寄屋風だが堅牢な鉄骨造で水面と対峙している。
右の茶室は、瀟洒な尾張有楽流好みで水面から高く浮いている感がある。
３島を繋ぐ切り石橋（3）や木橋（1）は短く平面的な姿を表し、西湖堤は池を切裂く幾何学模様を描いている。

◆ 石橋が主体

三つの島をつなぐ石橋と木橋。

◆ 自然を写した花景色

池端のシダレザクラ。

一面に広がるスイレン、ヒツジグサ。

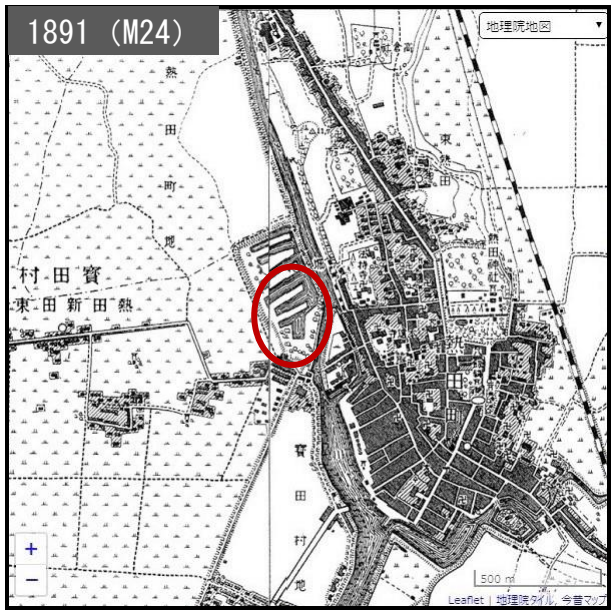
◆ 大名好みの花壇（牡丹園 20 種 700 株 ／ 花菖蒲園 20 種 1700 株）

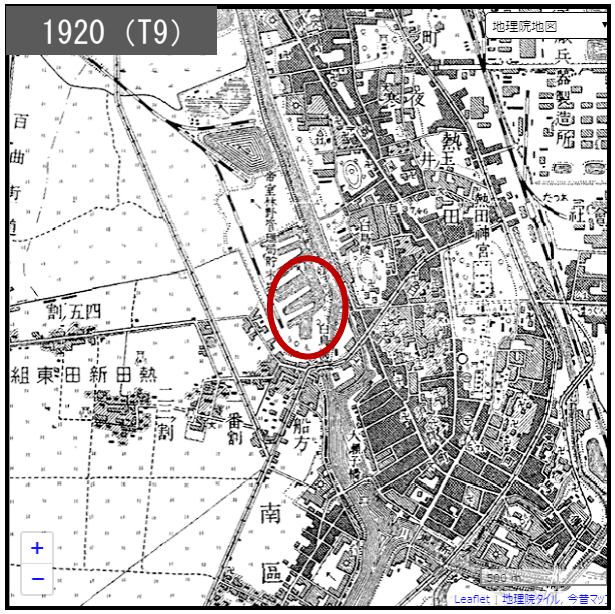
名物の牡丹園。

満開の古江戸系ハナショウブ。

【写真：浅井正明、飯田康博、加藤正嗣、松沢孝晋】

白 鳥 庭 園 の 歩 み





＊今昔マップ on the web ©谷謙二（ http://ktgis.net/kjmapw/ ）により作成

◆名古屋城築城のための材木置場が起源

1610 年、築城のための木材置場設置。

福島正則が大池（太夫堀）を掘らせたという。

1615 年、木曽が幕府直轄領から尾張藩領になる。

木曽の木材伐採 → 筏に組んで木曽川を下る → 伊勢湾 → 堀川を上って白鳥へ（御材木奉行所で管理）。

◆明治以降は、国営の貯木場

明治 10 年（1877）、国が白鳥貯木所を設置。

＊ 貯木場の西方は一面の水田。

大正５年（1916）、国鉄白鳥駅（木材専用駅）開業。

＊ 貯木場は北へも広がる。国道 1 号線はまだ未整備。

◆戦後は…

昭和 43 年（1968）、西部木材港開設（拠点が移る）。

昭和 54 年（1979）、貯木場の名古屋市への売却を決定。

昭和 56 年（1981）、白鳥公園の都市計画決定。

昭和 57 年（1982）、国鉄白鳥駅廃止。

昭和 58 年（1983）、白鳥庭園の造成工事はじまる。

昭和 61 年（1986）、世界デザイン博覧会の開催決定。

昭和 63 年（1988）、世界デザイン博覧会の会場整備。

平成元年（1989）、世界デザイン博覧会開催。

旧貯木場（国際会議場～白鳥庭園）が会場。

白鳥庭園は、整備途上で暫定公開。

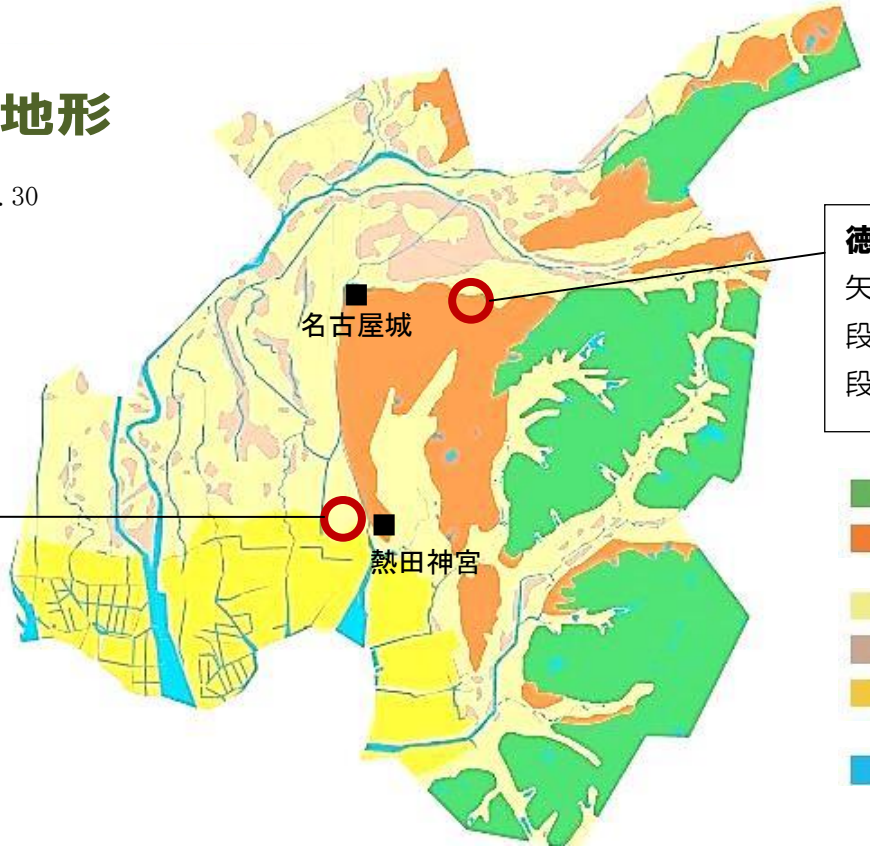
平成３年（1991）、白鳥庭園開園。

1986 年の白鳥貯木場（写真提供：熱田区役所）

1986 年の堀川叶橋付近（同左）

100 年前の名古屋の地形

＊「生物多様性 2050 なごや戦略」P. 30
をもとに作成。



徳 川 園
矢田川の河岸段丘のへり。
段丘（台地）の上は樹林、
段丘の下は池。

白鳥庭園
江戸初期には、堀川河口の低湿地。
その後、南方への干拓が進んだ。
（国道１号の南側は干拓地）
対岸は熱田台地の先端部。
庭園は、貯木場（掘割）を埋め立てて造成。

徳 川 園 の 歩 み

◆江戸時代には… 藩主の隠居所

２代藩主光友の隠居所（1695~）。 光友の死後は、家老（成瀬・石河・渡辺）の下屋敷に。
敷地は 44ha あり、池に 16 挺立の舟を浮かべたという。

◆明治 22 年～、尾張徳川邸を造営

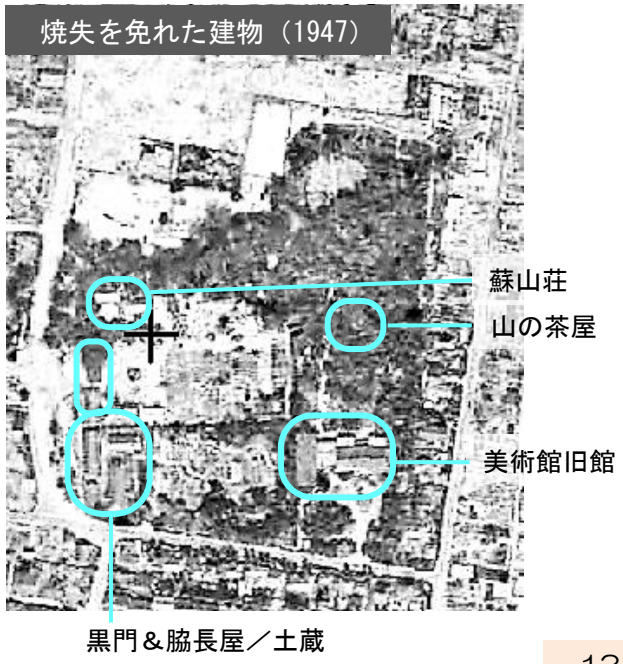
明治 22~33 年（1889~1900）、尾張徳川邸の造営。 黒門（薬医門）は当時の遺構。
敷地の周囲は、⩎田（北の低地）やᛉ桑畑（西・南・東の台地上）、∴茶畑（斜面）だった。
建物は台地上。 建物の北側は樹林（台地上は今も残る○広葉樹林、谷筋や斜面は∧マツ林）。

◆昭和 6 年、邸宅と庭園を名古屋市に寄付

昭和元年（1926）、邸宅の一部を千種区の揚輝荘へ移築（伴華楼２階部分）。
昭和６年（1931）、邸宅・庭園を名古屋市に寄付。 翌年、「徳川園」として一般公開。
昭和 10 年（1935）、徳川美術館（旧館）開館。
昭和 12 年（1937）、蘇山荘（汎太平洋平和博覧会の迎賓館）を移築。
昭和 20 年（1945）、空襲によりほとんどの建物を焼失。

焼失前の本館と広場

焼失前の邸宅と美術館

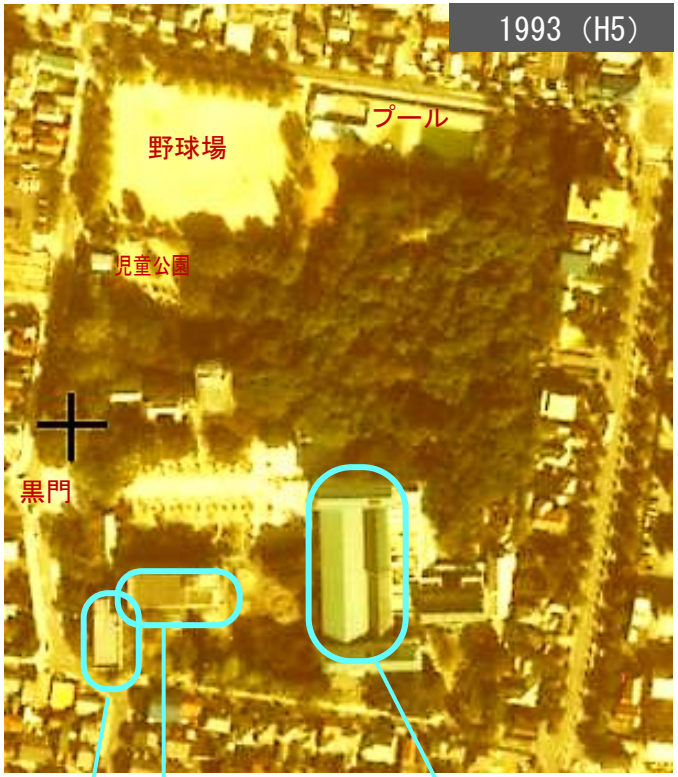


◆戦後… 都市公園としての整備

昭和 25 年（1950）、名古屋市が蓬左文庫を購入。翌年公開。
北部（台地下）に野球場、児童公園、プールなどを順次整備。
昭和 40 年（1965）、東図書館開館。 →平成 13 年（2001）に移転。
昭和 55 年（1980）、北東部の樹林 1.2ha を特別緑地保全地区に指定。
昭和 58 年（1983）、蓬左文庫新館開館。

◆リニューアル

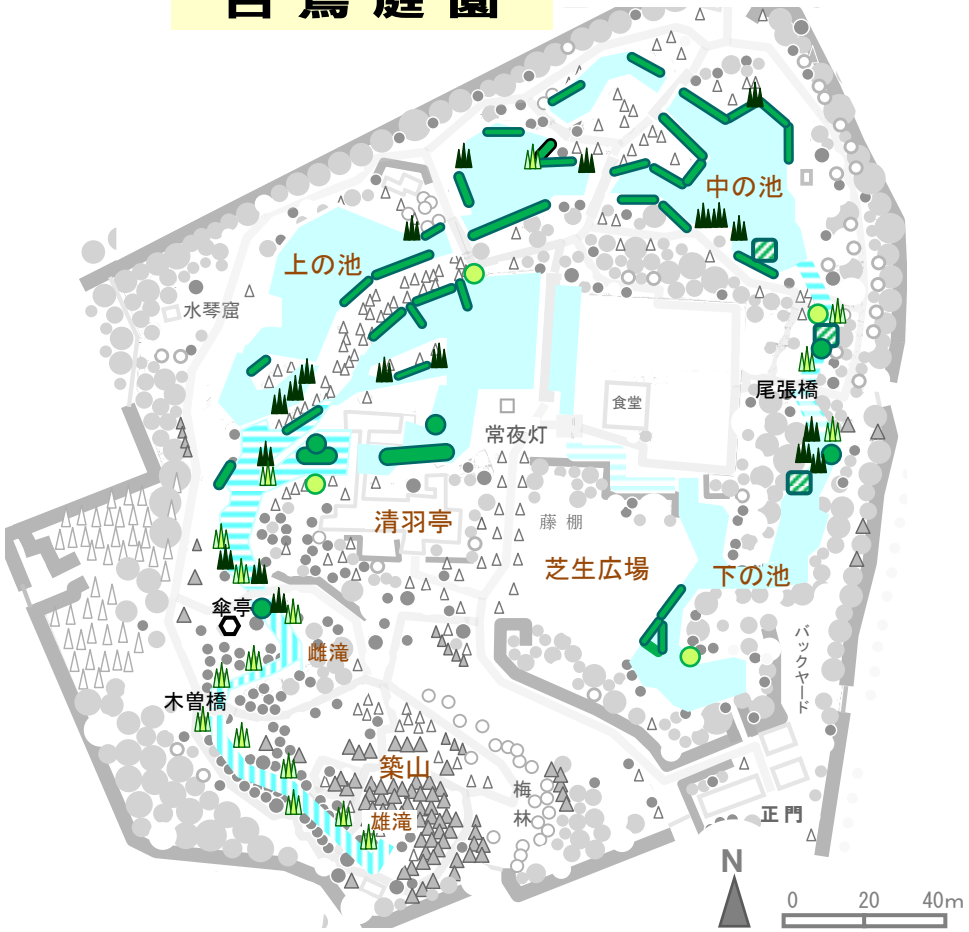
昭和 62 年（1987）、徳川美術館の新館完成。
平成 16 年（2004）、日本庭園完成。 美術館と蓬左文庫の一体化。



＊ 地図：「今昔マップ on the web ©谷謙二」により作成 ／ 写真：国土地理院より

水 辺 の 植 物

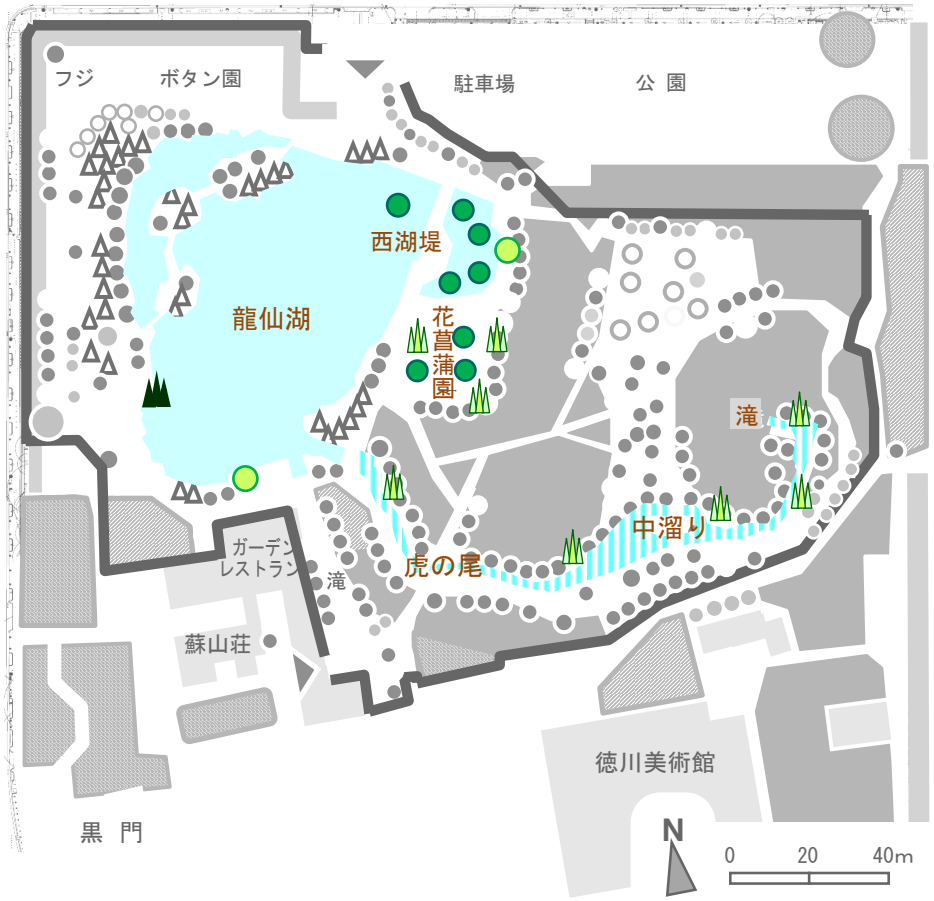
白 鳥 庭 園



池は、いくつにも分かれている。
このため水際線の延長が長く、形も複雑で多様。

流れは、流速のはやい渓流部（雄滝～傘亭前）とゆるやかな緩流部（傘亭前～清羽亭西）に分かれている。

徳 川 園



池は大きくまとまっている。
池の北東部は、西湖堤で区切られている。

虎の尾と呼ばれる渓流は流れが速いが、中ほどに止水域（中溜り）がある。
花菖蒲園は細い水路で囲まれている。
花菖蒲園の東（段丘下）にも、浅く緩やかな流れが設けられている。

- ヨシ、コガマ、フトイ、マコモなど（葉の細長い **抽水植物**）
- セキショウ、ハナショウブ、スギナ（葉の細長い **湿生植物**）
- アサザ、スイレン、ハス、コウホネなど（葉の丸っこい **浮葉・抽水植物**）
- ハンゲショウ（葉の丸っこい **湿生植物**）
- **沈水植物**（水の中に沈んでいる植物）

浮葉植物

葉を水面に浮かべている（根は水底）

アサザ　花期は 6−10 月。

スイレン　花期は 6−9 月。

浮遊植物

葉も根も浮いている

トチカガミ属　花期は 7−10 月。

抽水植物

葉や茎を水上に突き出している（根は水底）

コウホネ　花期は 6−10 月。

ヨ　シ　花期は 8−10 月。

ハ　ス　花期は 7−8 月。

コガマ　花期は 7−8 月。

ミズカンナ　花期は 6−7 月。

フトイ

湿生・渓岸植物

時々or ひたひた位に冠水する所好き

ハンゲショウ　花期は 6−7 月。
夏至の頃から葉が白くなる。

セキショウ

ハナショウブ／ノハナショウブ
花期は 6−7 月。

【写真：浅井正明、飯田康博、加藤正嗣、川口暢子、小西久充】

■植栽　□自生　△逸出

				白鳥庭園		徳川園			
				池	渓流部　緩流部	池	虎の尾（渓流）	花菖蒲園	花菖蒲園東の流れ
				9	5	4	0	3	0
水生植物	被子植物	ｽｲﾚﾝ	コウホネ（抽水）		■			■	
			ヒツジグサ（浮葉）	■					
			外来スイレン（浮葉）	■	■	■		■	
		ﾄﾁｶｶﾞﾐ	ﾄﾁｶｶﾞﾐ科の一種（沈水）	△					
			ﾄﾁｶｶﾞﾐ属（浮遊）					■	
		ｸｽﾞｳｺﾝ	ミズカンナ（抽水）			■			
		ｶﾞﾏ	コガマ（抽水）	■	■				
		ｶﾔﾂﾘｸﾞｻ	フトイ（抽水）	■		■			
		ｲﾈ	ヨ　シ（抽水）	■	■				
			マコモ（抽水）	■					
		ﾊｽ	ハ　ス（抽水）	■		■			
		ﾐﾂｶﾞｼﾜ	アサザ（浮葉）	■	■				

総じて・・・

白鳥庭園： 池や緩流部に **水生植物が豊富**

- 池や緩流部は**抽水植物**の種類・量が多い。**浮葉植物**の量も多い。
- 渓流部には**岩場を好む植物**が多い（cf. P.20）。

徳 川 園： 渓流部や花菖蒲園に **昔ながらの植物が豊富**

- 池の水生植物は種類・量とも少ない。
- 虎の尾（渓流）には**岩場を好む植物**に加え、里山や人家周辺にみられる**シダ類**も多い（cf. P.20）。
- 花菖蒲園には**水田や休耕田にみられる植物**が多い（cf. P.19）。

◇白鳥庭園の池（5,600 ㎡、平均水深 0.3m）：　水生植物９種

池

面積は徳川園の池とほぼ同じだが、いくつにも分かれている。

このため水際線が長く、水際の形状が多様 ⟶ 水辺植生が**多様**。

- ほぼ全域…　アサザが分布し葉を浮かべる。
- 随所の岸辺…　ヨシやコガマが茎をのばす。
- 清羽亭周辺…　スイレンやヒツジグサの葉が覆う。
- 下の池…　ハス（芝生広場前）、フトイ、マコモ等（尾張橋南）。
- 流れの下流部（緩流部）にも、コウホネ、コガマ等がみられる。

◆徳川園の池（4,800 ㎡、0.7m）：　水生植物４種

池は、大きくまとまっている。

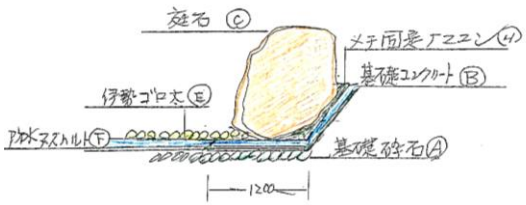
水際の形状、水辺植生ともに**スッキリ**。

- 水生植物が見られるのは、西湖堤周辺に限られる。
- スイレンが主体。
- 他にハス、ミズカンナ、フトイが少々。

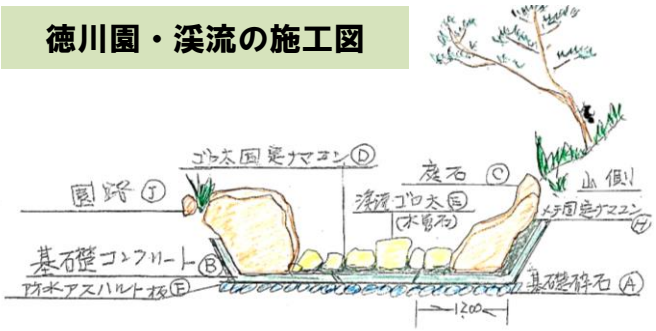
白鳥庭園の池はいくつにも分かれ、水生植物の密生が随所に見られる。

徳川園の龍仙湖は、石組み護岸でスッキリと固められ水生植物も少ない。

徳川園・池の護岸施工図



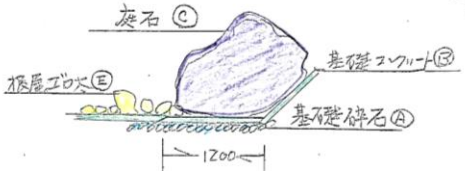
徳川園・渓流の施工図



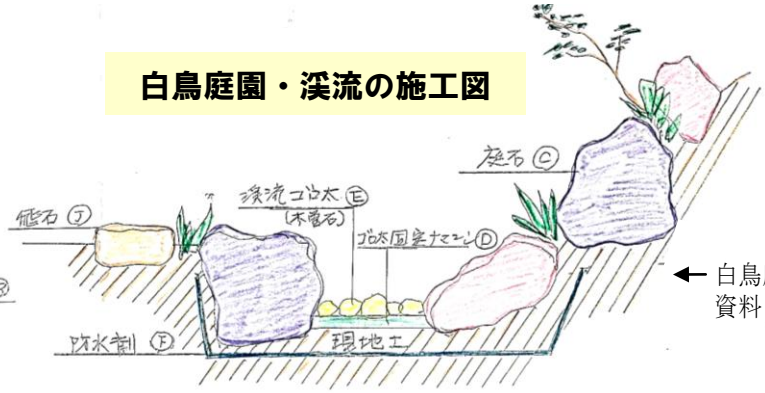
徳川園の渓流

流れの形は掘割型で単調。
護岸は山石（切り石）。
水際の植物は多くない。
しかし、昔からの樹林に囲まれているため、**シダ類が多様。**

白鳥庭園・池の護岸施工図



白鳥庭園・渓流の施工図



← 白鳥庭園ガイドボランティア講座
資料（by 佐竹三喜雄）

白鳥庭園の渓流

流れの形は自然に近く、多様で複雑。
護岸は角の取れた川石。
岩の隙間に多様な植物。
急流部：湿生植物や
　　岩場好きの植物。
緩流部：水生植物。

徳 川 園 ： コンクリートで流れの基礎（防水層）を作り、その中に岩組・護岸を築く。
施工上の自由度が低いため、形状がやや単調。

白鳥庭園 ： 防水材（ベントナイトシート）で防水層を作る。
石の形や大きさ、組み方、流れの形、幅などにあわせて防水層を施工する。
施工上の自由度が高いため、自然に近い形状が実現。

徳川園の池

←
護岸は岩で固められ、
水際の植物はほとんど
見られない。

→
護岸は岩と土が混在。
水際の随所に植物が。

白鳥庭園の池

白鳥庭園の緩流

【写真：飯田康博、加藤正嗣、川口暢子】

※ 岩場好き
■植栽　□自生

			白鳥庭園			徳川園			
			池	渓流部	緩流部	池	虎の尾（渓流）	花菖蒲園	花菖蒲園東の流れ
湿生・渓岸植物			1	9		2	5	6	3
シダ	ｾﾞﾝﾏｲ	ヤシャゼンマイ ※		■					
被子植物	ﾄﾞｸﾀﾞﾐ	ドクダミ		□				□	
		ハンゲショウ	■			■			■
	ｼｮｳﾌﾞ	セキショウ		■			■		■
	ｱﾔﾒ	ハナショウブ		■	■			■	
		キショウブ			■				
	ｶﾔﾂﾘｸﾞｻ	スゲ属					□		
		ヒメクグ						□	
	ｲﾈ	イヌビエ						□	
		チゴザサ						□	
	ﾐｿﾊｷﾞ	ミソハギ					■		
	ｱﾌﾞﾗﾅ	タネツケバナ					□		
	ﾀﾃﾞ	イヌタデ			□		□		
	ｼｿ	トウバナ		□					
	ｷｸ	アメリカタカサブロウ		□	□				
	ｳｺｷﾞ	チドメグサ		□		□		□	
	ｾﾘ	セリ							■

流れ

＊白鳥庭園の渓流・緩流：延長 130m、高低差 5.5m
徳川園の渓流（虎の尾）：延長 140m、高低差 3.7m

湿生・渓岸植物

白鳥庭園の渓流は、湿生・渓岸植物が豊か。
また、緩流部には水生植物も見られる（cf. P.17）。
徳川園では、花菖蒲園の存在が渓流の植生を補完している。

◇白鳥庭園の渓流・緩流：　９種

植栽…　ヤシャゼンマイ（ゼンマイより葉が細く流水に耐えられる）
　　セキショウ（浅く流れがあり底が石礫のところ好き、
　　端午の節句でお風呂に入れるショウブの仲間）
　　ハナショウブ（ショウブではなくアヤメの仲間、
　　野生のノハナショウブは明るい湿地好き）
　　キショウブ（流れのない水辺の泥だまり好き、アヤメの仲間）
自生…　ドクダミ（暗くてジメジメしたところ好き）
　　イヌタデ／トウバナ／チドメグサ（湿ったところ好き）
　　アメリカタカサブロウ（水田や水路の泥だまり、帰化植物）

◆徳川園の渓流（虎の尾）：　５種

植栽…　セキショウ、　ミソハギ（湿地や水際の泥だまり、盆花に利用）
自生…　タネツケバナ（水田や水路の泥だまり好き）、　イヌタデ

◆徳川園の花菖蒲園：　６種

植栽…　ハナショウブ
自生…　ヒメクグ／イヌビエ／チゴザサ等（水田・休耕田好き）

ヤシャゼンマイ（渓岸植物）
増水時に冠水するような渓流の脇に生育。

アメリカタカサブロウ（湿生植物、南米原産）　水田の畔など日当たりが良く湿気のある所が好き。

イヌタデ（湿生植物）
水田の畔などに生育。湿った所から乾いた所まで広くみられる。

ミソハギ（湿生植物）
畦、休耕田、用水脇などに生育。盆の頃に紅紫色の花をつける。

セリ（湿生植物）
湿地や畦道、休耕田、水辺の浅瀬などに生育。

※ 岩場好き
■植栽　□自生

			白鳥庭園			徳川園			
			池	渓流部	緩流部	池	虎の尾（渓流）	花菖蒲園	花菖蒲園東の流れ
岩場好きの植物			・・・	6		1	6	1	1
	被子植物	ユリ　ホトトギス ※							■
		ユキノシタ　ユキノシタ ※		■					
		クワ　イタビカズラ ※		□					
	シダ植物	イノモトソウ　イノモトソウ ※		□	□	□	□	□	
		オシダ　オニヤブソテツ ※		■			□		
		タマシダ　タマシダ ※		■	■				
		ウラボシ　マメヅタ ※					□		
		ノキシノブ ※		□			□		
		ヒトツバ ※					■		
		ミツデウラボシ ※					□		
その他のシダ植物				5		2	13	3	3
	シダ植物	トクサ　スギナ			□			□	
		カニクサ　カニクサ		□					
		コバノイシカグマ　イワヒメワラビ		□					
		チャセンシダ　トラノオシダ					□		
		ヒメシダ　ホシダ					□		□
		ハシゴシダ					□		
		ミゾシダ				□	□	□	
		ヒメワラビ					□	□	
		ミドリヒメワラビ					□		
		メシダ　ホソバシケシダ					□		
		シケシダ			□	□	□		□
		ヘラシダ					□		
		コウヤワラビ　コウヤワラビ					□		
		オシダ　ヤブソテツ					□		
		ミヤコヤブソテツ					□		
		ベニシダ		□	□		□		□

岩場好きの植物

白鳥庭園と徳川園は、ほぼ同等。

- 社寺や古い住宅の石垣などでよくみられる種が多い。
- 常緑植物で、暗い場所でも生育できる種が多く、庭園に積極的に導入されやすい。
- 除草の対象となるような植物が入り込みにくい環境を利用するため、庭園管理との親和性が高い。

シダ植物（岩場好き以外）

◇**白鳥庭園の渓流・緩流　：　5 種**（自生 5）

◆**徳川園の渓流（虎の尾）：　13 種**（自生 13）

岩場好き以外のシダ植物については、徳川園が圧倒的に豊か。

- 里山のほか、農村や古くからの住宅地等、身近にみられる種が多い。
- 徳川園は戦前から周囲の樹林が維持されており、これらの種の胞子が継続的に供給される立地であった。
- 白鳥庭園は貯木場跡地で、周囲も住宅地や堀川であり、シダ類の胞子の供給源となる場所（白鳥古墳や熱田神宮）からやや離れている。

ホトトギス

イタビカズラ

イノモトソウ

ノキシノブ

オニヤブソテツ

ミゾシダ

シケシダ

ベニシダ

【写真：飯田康博、加藤正嗣、小西久充】

白鳥庭園・徳川園のトンボ

生息のための主要環境要素	科 名	種 名	白鳥庭園 2016-17				徳 川 園 2018			
			渓流部	清羽亭西	上の池中の池	下の池	虎の尾中溜り	龍仙湖	西湖堤周辺	花菖蒲園
			急流	緩流	止水	止水	止水	止水	止水	止水
			閉鎖的	開放的	開放的	閉鎖的	閉鎖的	開放的	開放的	開放的
		（種 数）	（白鳥庭園 計 21）				（徳川園 計 18）			
			5	16	18	16	9	15	16	8
1 水面	ヤンマ	**ギンヤンマ**	□	□	□	□	○	○	○	
	トンボ	**シオカラトンボ**	□	□	□	□	○	○	○	○
	トンボ	**ウスバキトンボ**	□	□	□	□	○	○	○	○
	トンボ	**ショウジョウトンボ**		□	□	□	○	○	○	
	サナエトンボ	**タイワンウチワヤンマ**		□	□	□		○	○	
	ヤマトンボ	オオヤマトンボ			□			○	○	
2 水面 水生植物	トンボ	**チョウトンボ**		□	□	□	○	○	○	
	イトトンボ	**アオモンイトトンボ**	□	□	□	□		○	○	○
	イトトンボ	**クロイトトンボ**		□	□	□		○	○	○
	イトトンボ	**アジアイトトンボ**		□	□	□		○	○	○
	イトトンボ	**ムスジイトトンボ**		□	□	□				
	イトトンボ	セスジイトトンボ							○	
	モノサシトンボ	モノサシトンボ					○		○	
3 水面・樹林	トンボ	**コシアキトンボ**	□	□	□	□	○	○	○	○
	ヤンマ	**クロスジギンヤンマ**		□	□	□	○	○	○	○
	トンボ	**オオシオカラトンボ**		□	□	□	○	○	○	○
	アオイトトンボ	オオアオイトトンボ				□				
4 水面・樹林 水生植物	—	—								
5 湿地	トンボ	アキアカネ		□	□			○		
	トンボ	ナツアカネ		□	□					
	トンボ	ノシメトンボ		△	△					
	トンボ	コノシメトンボ			□					
6 湿地・樹林	トンボ	リスアカネ				□				
	トンボ	マユタテアカネ							○	
	トンボ	ネキトンボ						○		
7 流水	カワトンボ	ハグロトンボ				△				

□○ 個体数 多い
□○ やや多い
□○ 少ない

△ 2011-17撮影記録による確認

◆種数はほぼ同等、個体数は白鳥庭園が多い

- 白鳥庭園では 21 種、徳川園では 18 種のトンボを確認した。トンボ相として大きな違いはない。
- 個体数では、白鳥庭園の方がかなり多い。

◆「2 水面・水生植物」好きのトンボ

- **植物体に産卵するイトトンボ類**は、**白鳥庭園**のほうが個体数が多い。 徳川園で浮葉植物が分布するのは西湖堤周辺に限られるが、白鳥庭園は下の池、清羽亭西など随所にまとまった分布が見られ、イトトンボ類の産卵場所として機能している。
- **水生植物が豊富な池沼を好むチョウトンボ**も、**白鳥庭園**のほうが個体数が多い。これも、水域における水生植物の多少の差によると思われる。
- 白鳥庭園は**ムスジイトトンボ**が生息するが、徳川園では**セスジイトトンボ**が生息する。また、**モノサシトンボ**は徳川園では確認できたが、白鳥庭園では未確認である。

◆「3 水面・樹林」好きのトンボ

- **水面と樹林のある環境を好む種（コシアキトンボやクロスジギンヤンマなど）**は、**徳川園**のほうが個体数が多い。 徳川園の虎の尾（中溜り）や西湖堤東の水辺に連続する樹林は、白鳥庭園の下の池周辺の樹林に比べて樹林の広がりや高低差が大きく、トンボの生息空間としての多様性が高い。
- 水面に張り出す樹木の枝に産卵する**オオアオイトトンボ**は、白鳥庭園では多くの個体を確認したが、徳川園では未確認である。

◆「5 湿地、 6 湿地・樹林」好きのトンボ

- **アカトンボ類**は、どちらの庭園も種数・個体数ともに多くはないが、水辺環境の多様性が高い白鳥庭園のほうが多く確認された。

① 広い開放水面 が好き

ギンヤンマ

シオカラトンボ

ウスバキトンボ

ショウジョウトンボ

タイワンウチワヤンマ

オオヤマトンボ

コシアキトンボ（成熟）

② 水際の水生植物帯 が好き

チョウトンボ

アオモンイトトンボ

クロイトトンボ

アジアイトトンボ

ムスジイトトンボ

セスジイトトンボ

モノサシトンボ

③ 樹林に囲まれた水面 が好き

コシアキトンボ（未熟）
成虫の雄は腹に白帯（腰空き）。
未熟成虫と雌は黄色い帯。

クロスジギンヤンマ

オオシオカラトンボ

オオアオイトトンボ

④ 白鳥庭園で観察できるアカトンボ

アキアカネ

ナツアカネ

ノシメトンボ

コノシメトンボ

リスアカネ

【写真：松沢孝晋、
飯田康博、
川口暢子】

トンボの観察ポイント

ヨシ、コガマ、フトイ、マコモなど（葉の細長い **抽水植物**）

セキショウ、ハナショウブ、スギナ（葉の細長い **湿生植物**）

アサザ、スイレン、ハス、コウホネなど（葉の丸っこい **浮葉・抽水植物**）

ハンゲショウ（葉の丸っこい **湿生植物**）

沈水植物（水の中に沈んでいる植物）

A 中の池： 広い水面 ＋ 水際の浮葉植物

水際にアサザなどの**浮葉植物**や**沈水植物**が生育し、イトトンボ類が**産卵場**として利用している。
広い水面では、ギンヤンマ、コシアキトンボなどが飛翔。
タイワンウチワヤンマは、水際の植物に止まりながら**探雌や摂食行動**をとる。シオカラトンボも石や植物に止まることが多い。

B 清羽亭西： 水面を覆う浮葉植物＆抽水植物

ヨシ帯（抽水植物）では、多くのアオモンイトトンボが**休息場・交尾場・産卵場**に利用している。
アサザなどの**浮葉植物**は、イトトンボ類が**産卵場**として利用。
水生植物の上をひらひら飛ぶチョウトンボ、**広い水面**の好きなギンヤンマ、ショウジョウトンボなども間近で観察できる。

C 下ノ池（尾張橋南）： 樹林に囲まれた水面 ＋ 水生植物

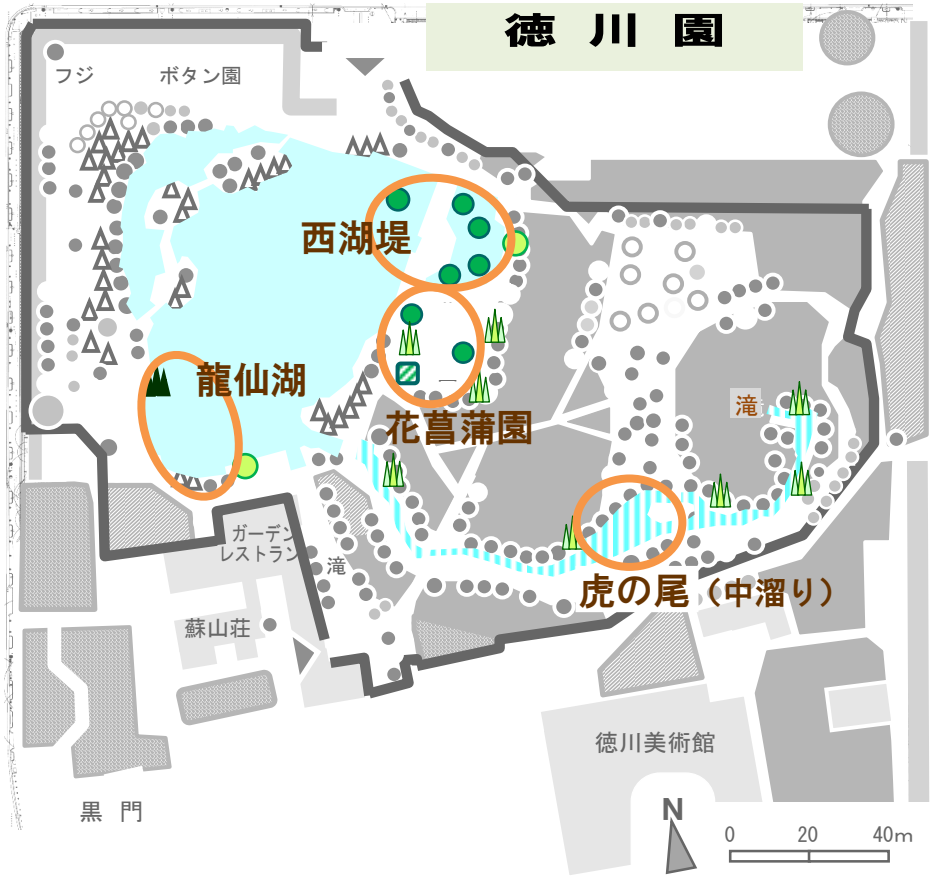
樹林に囲まれた水面を好むクロスジギンヤンマ、**水面に張り出した樹木**を**産卵場**として利用するオオアオイトトンボが見られる。
フトイやヨシ等の**抽水植物帯**は、シオカラトンボの**羽化場所**。
浮葉植物や**沈水植物**は、イトトンボ類の**休息場・産卵場**。

D 下ノ池（芝生広場東）：樹林に囲まれた水面 ＋ 水生植物

芝生広場から下の池の**水面**を見ると、シオカラトンボやギンヤンマが飛翔している。
水際の**抽水植物**や**浮葉植物**を注意深く観察すると…、アオモンイトトンボが止まっている。

E 上の池西岸：水際の樹木に止まるアカトンボ

10 月になると、上の池北岸の樹木の**枝先や杭の先**を、アカトンボ類が**休息場**として利用する。
枝先にはアキアカネ、ナツアカネ、低木にはコノシメトンボがよく見られる。



水辺環境の比較（白鳥庭園 VS 徳川園）

◆ 徳川園は、源流と止水域（龍仙湖）をつなぐ流水環境が比較的単調である。白鳥庭園は、源流から渓流（急流）を経て止水域に至る間に、浅く流れの緩やかな区間（清羽亭西）が広がっている。そこには、浮葉植物や抽水植物が生育し、多様性の高い環境が形成されている。
このため**白鳥庭園**では、**開放水面を好む種に加えて、水生植物への依存性が高い種**（イトトンボ類やチョウトンボなど）**の生息も許容**しており、**徳川園に比べてトンボの発生数が多い**。

◆ 樹林地に囲まれた池沼として、**下の池**（白鳥庭園）と**虎の尾中溜り**（徳川園）の環境はよく似ている。ただし下の池（白鳥庭園）のほうが、浮葉植物が多い分だけ生息するトンボの種類・個体数ともに多い。

龍　仙　湖：　広い水面

広い水面を飛翔するギンヤンマ、オオヤマトンボ、チョウトンボなどが観察できる。
また、**水際の石や草**（ﾌﾄｲ）に止まっているシオカラトンボ、アオモンイトトンボなども観察できる。

西湖堤周辺：　水面の浮葉植物 ＋ 隣接する樹林

水面に**浮葉植物**が生育しており、クロイトトンボ、セスジイトトンボなど多くのイトトンボ類が観察できる。
また、**水面を飛翔**するクロスジギンヤンマ、コシアキトンボ、タイワンウチワヤンマなどが観察できる。

花菖蒲園：　水路　＋　隣接する樹林

ハナショウブに止まるオオシオカラトンボや、**水路で産卵**するクロスジギンヤンマ、オオシオカラトンボなどが観察できる。

虎の尾（中溜り）：　樹林に囲まれた水面

水面を飛翔するコシアキトンボ、シオカラトンボ、　**樹木の周りで摂食**するクロスジギンヤンマ、ギンヤンマ、チョウトンボ、　**水際の草**に止まるモノサシトンボなどが観察できる。浮葉植物がないためイトトンボ類はみられない。

◆ 緩い流れに浮葉植物が繁茂する**清羽亭西**（白鳥庭園）は、トンボ相が多様な環境。広い水面を好むギンヤンマ、シオカラトンボ等のほか、水生植物に依存するチョウトンボ、アオモンイトトンボ、ムスジイトトンボ等も生息している。

◆ **西湖堤周辺**（徳川園）は、開放水面に浮葉植物が生育するとともに連続して樹林地が分布し、トンボにとって良好な環境である。　ここではクロイトトンボ、セスジイトトンボなど多くのイトトンボ類が生息する。

【写真：松沢孝晋】

名古屋のトンボ

１．名古屋の地形とトンボの分布

名古屋市の地形は、丘陵地（東部）、台地（中央部）、沖積平野（北・西・南部）の３つに分けられる。 *＊地形区分と調査対象地の位置は、次頁の**地図**参照。*

12 の公園・緑地で調査（原則として現地調査、一部は文献調査等）を行ったが、そこで記録できたトンボは 49 種であった。

*＊次頁の**表**では、「トンボが生息するために必要な主要環境要素（７区分）」別に記録されたトンボの種数を比較した。*

◆ 公園・緑地の種数比較

トンボ種数が最も多いのは東山公園（37 種）、次いで猪高緑地（36 種）、平針里山（33 種）であり、丘陵地の公園・緑地で種数が多い。 台地のヘリに位置する公園・緑地でトンボの種数が多いのは、鶴舞公園（25 種）、呼続公園（22 種）、白鳥庭園（21 種）、徳川園（19 種）、名城公園（18 種）である。

丘陵地である程度まとまった規模の公園・緑地なら 30 種前後、台地のヘリ等に位置する公園では 20 種前後のトンボが生息することが示唆される。ただし、丘陵地の公園・緑地であっても、名古屋大学や細口池では記録種は少ない。

◆「種が生息するための主要環境要素」別の種数比較

「1 水面」があれば生息する種は、全調査地区で記録されている。 「3 水面・樹林」があれば生息する種も、かなりの公園・緑地で記録されている。

分布に偏りがあるのは、「4 水面・抽水植物・樹林」、「5 湿地」、「6 湿地・樹林」が必要な種で、これらは丘陵地の公園・緑地に偏って記録されている。

２．身近なトンボ vs 珍しいトンボ

◆ 身近なトンボ （表の**赤字** ： ７割以上＝9 地区以上で記録された種）

12 の公園・緑地のうち７割以上で記録された種は、**ギンヤンマ、シオカラトンボなど 12 種**。

これらは、都市部で水辺環境を創出する場合に最初に侵入してくる可能性があるトンボといえる。 学校ビオトープなど小規模な水辺環境の創出において、生息が期待される目標種として取り上げることも可能である。なお川名公園と細口池では、記録された全種がこのカテゴリーである。

◆ いる所にはいるトンボ （表の**青字** ： ３割以上７割未満＝4～8 地区で記録された種）

12 の公園・緑地のうち確認記録が３割以上７割未満の種は、**アオモンイトトンボなど 20 種**。

主要環境要素別には、「2 水面・水生植物」、「3 水面・樹林」や「5 湿地」が多い。 丘陵地の公園・緑地に多いものの、市街地であっても「水面・水生植物・湿地等の環境を有するある程度の規模の公園・緑地」であれば生息する可能性がある種と言える。

◆ 名古屋では珍しいトンボ （表の**黒字** ： ３割未満＝3 地区以下で記録された種）

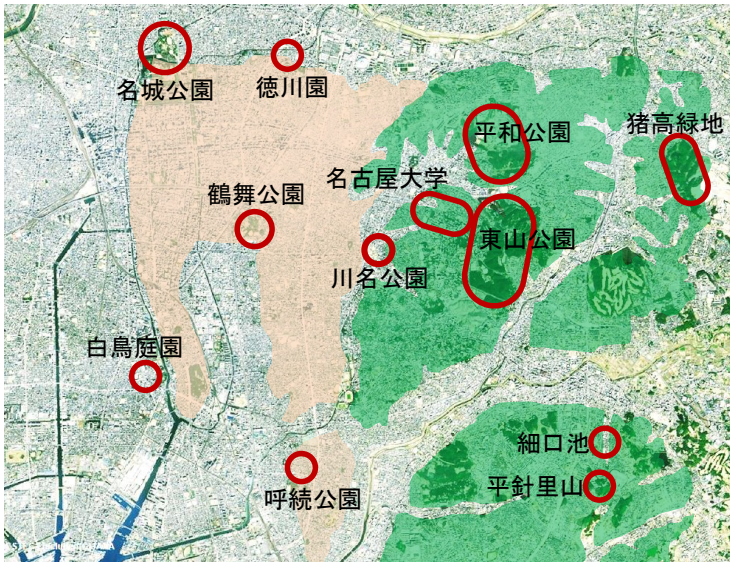
12 の公園・緑地のうち確認記録が３割未満の種は、17 種。 丘陵部の公園・緑地（東山公園、平針里山、猪高緑地など）に偏る傾向を示した。

種の生態や記録地の数からみると、ムスジイトトンボ、セスジイトトンボ、ベニイトトンボ、オツネントンボ、タカネトンボ、サラサヤンマ、ネアカヨシヤンマ、ルリボシヤンマ、トラフトンボ、ヨツボシトンボなどは、名古屋市において希少性が高い種と考えられる。

生息のための主要環境要素	科　名	種　名	確認地区数	台地のヘリ等						丘陵地					
				川名公園	名城公園	徳川園	白鳥庭園	呼続公園	鶴舞公園	東山公園	猪高緑地	平針里山	平和公園	名古屋大学	細口池
1 水面	ヤンマ	**ギンヤンマ**	12	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	トンボ	**ショウジョウトンボ**	12	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	トンボ	**ウスバキトンボ**	12	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	トンボ	**シオカラトンボ**	12	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	ヤマトンボ	**オオヤマトンボ**	9		○	○	○		○	○	○	○	○	○	
	サナエトンボ	**ウチワヤンマ**	6		○				○	○	○		○	○	
	サナエトンボ	**タイワンウチワヤンマ**	5		○	○	○	○	○						
		7		4	7	6	6	5	7	6	6	5	6	6	4
2 水面 水生植物	トンボ	**チョウトンボ**	11		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	イトトンボ	**アジアイトトンボ**	11	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○
	イトトンボ	**クロイトトンボ**	10			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	イトトンボ	**アオモンイトトンボ**	8		○	○	○	○	○	○	○		○		
	モノサシトンボ	**モノサシトンボ**	6			○		○	○	○	○	○			
	トンボ	**コフキトンボ**	5		○					○	○	○	○		
	アオイトトンボ	**ホソミオツネントンボ**	4					○		○		○	○		
	アオイトトンボ	**アオイトトンボ**	4					○	○		○	○			
	イトトンボ	ムスジイトトンボ	3			○ *2	○	○							
	イトトンボ	セスジイトトンぼ	2			○				○					
	トンボ	ヨツボシトンボ	2						○		○				
	アオイトトンボ	オツネントンボ	1							○					
	エゾトンボ	トラフトンボ	1								○				
		13		1	4	7	5	8	7	9	9	7	5	3	3
3 水面 樹林	トンボ	**コシアキトンボ**	11		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	トンボ	**オオシオカラトンボ**	11		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	ヤンマ	**クロスジギンヤンマ**	8			○	○	○	○	○		○	○	○	
	アオイトトンボ	**オオアオイトトンボ**	7				○	○	○	○	○	○	○		
	トンボ	**シオヤトンボ**	6					○	○	○	○	○	○		
	ヤンマ	**カトリヤンマ**	5		○					○	○	○	○		
	エゾトンボ	タカネトンボ	1		○ *2										
		7			4	3	4	5	5	6	5	6	6	3	2
4 水面 水生植物 樹林	ヤンマ	**マルタンヤンマ**	4		○				○		○	○			
	ヤンマ	ネアカヨシヤンマ	2								○	○			
	ヤンマ	ヤブヤンマ	2								○	○			
	ヤンマ	ルリボシヤンマ	1							○					
		4			1				1	1	3	3			
5 湿地	トンボ	**アキアカネ**	10			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	トンボ	**ナツアカネ**	6				○	○		○	○	○	○		
	トンボ	**ノシメトンボ**	6				○ *1		○	○	○	○	○		
	トンボ	**コノシメトンボ**	6		○		○				○	○	○	○	
	トンボ	**ハラビロトンボ**	4							○	○	○	○		
	イトトンボ	キイトトンボ	3							○	○	○			
	イトトンボ	ベニイトトンボ	2							○	○ *2				
	トンボ	マイコアカネ	1							○					
	トンボ	ハッチョウトンボ	1							○					
		9			1	1	4	2	2	8	7	6	5	2	1
6 湿地 樹林	トンボ	**マユタテアカネ**	9		○	○		○	○	○	○	○	○	○	
	トンボ	**リスアカネ**	6				○		○	○	○	○	○		
	トンボ	**ヒメアカネ**	4							○	○	○	○		
	トンボ	**ネキトンボ**	4			○					○	○		○	
	ヤンマ	サラサヤンマ	3							○	○		○		
		5			1	2	1	1	2	4	5	4	4	2	
7 流水	オニヤンマ	**オニヤンマ**	6					○	○	○	○	○	○		
	カワトンボ	ハグロトンボ	2				○ *1			○					
	ヤンマ	ミルンヤンマ	1							○					
	トンボ	ミヤマアカネ	1									○			
		4					1	1	1	3	1	2	1		
合計種数		49		5	18	19	21	22	25	37	36	33	27	16	10

*1：飯田氏による記録　　*2：高崎（2018）による記録

市内12ヵ所の公園・緑地でのトンボ記録種



赤　字　**7割以上**の地区で記録（よく見かける）
青　字　**3割以上**の地区で記録
黒　字　**3割未満**の地区で記録（市内では珍しい）

＜現地調査を実施した公園緑地＞

① 川名公園（昭和区）：2015.7
② 名城公園（中区・北区）：2015.4～10
③ 徳川園（東区）：2018.4～11
④ 白鳥庭園（熱田区）：2016.4～10　2017.4～9
⑤ 呼続公園（南区）：2014.5・9　2017.4～10　2018.4～9
⑥ 鶴舞公園（昭和区）：2017.4～10　2018.4～10
⑧ 猪高緑地（名東区）：2011.8　2013.10
⑨ 平針里山（天白区）：2010.5～10
⑪ 名古屋大学（千種区）：2015.5～10
⑫ 細口池（天白区）：2015.7　2016.5～10

＜文献からの記録＞

⑦ 東山公園（千種区）　⑩ 平和公園（千種区）
「株式会社プレック研究所.2008.東山公園及び平和公園環境調査業務委託調査報告書」より2007年と2008年の現地調査記録種を抽出

⑧ 猪高緑地（名東区）
「高崎保郎.2017.名古屋市名東区猪高緑地の蜻蛉と蝶.なごやの生物多様性4：89-106」より2010年以降の記録種を抽出

＜その他記録＞

④ 白鳥庭園（熱田区）
飯田康博氏による2011～2017年の写真撮影記録。 写真撮影記録からの追加種（ハグロトンボ、ノシメトンボ）は表中に「＊1」を記入。

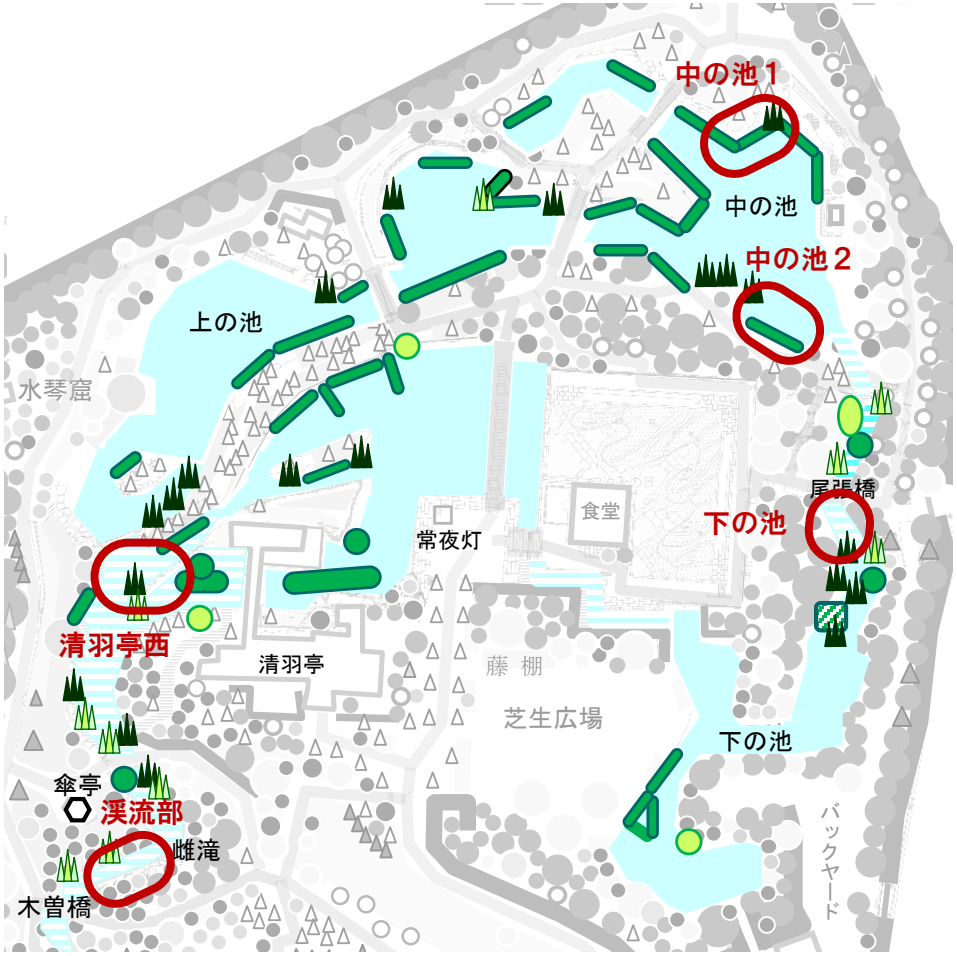
② 名城公園（中区・北区）・③ 徳川園（東区）・⑧ 猪高緑地（名東区）
「高崎保朗。2018。名古屋の蜻蛉目総括,昔と今．なごやの生物多様性5：107-111」より2008年以降の記録を抽出 「＊2」。

底生動物調査

１． 調査の概要

トンボ幼虫（ヤゴ）の生息状況を確認することを目的に、水中に生息する底生動物の調査を実施した。 調査日時、調査方法等を以下に記した。

- ■ 調査日時： 2018 年９月 29 日　10:20～12:00
- ■ 調査方法： たも網による任意サンプリング（1 調査地区のサンプリング時間は 30 分）。
- ■ 調査地区： 白鳥庭園内の水辺５ヵ所（渓流部・清羽亭西・中の池１・中の池２・下の池）。



【写真：松沢孝晋】

２． 調査結果

◆ 調査で確認した底生動物は **11 種**で、トンボ目の確認は **6 種**であった。
確認種数・個体数が多かったのは、**清羽亭西**（7 種 83 個体）、**渓流部**（5 種 28 個体）、**下の池**（6 種 17 個体）であった。
中の池は、種数・個体数とも少なかった。

◆ 確認種についてみると、**シオカラトンボ**が清羽亭西、渓流部、下の池で多く確認された。　また、**ギンヤンマ**が清羽亭西で多く確認された。
貝類では、**モノアラガイ**が清羽亭西と渓流部で多く確認された。
中の池については、イトトンボ科の一種、ギンヤンマ、シオカラトンボが確認されたが、個体数は少なく、昨年と同様の結果となった。

【表】 底生動物調査結果

目	種	渓流部	清羽亭西	中の池１	中の池２	下の池
トンボ	イトトンボ科の一種		2	1		（ 6）
	ギンヤンマ		10 （ 1）	（ 1）	1	1 （ 1）
	タイワンウチワヤンマ		1 （ 2）			（ 3）
	コシアキトンボ					2 （18）
	ショウジョウトンボ		1 （ 3）			
	シオカラトンボ	12 （11）	24 （28）	2 （ 1）		11 （30）
小　計		12 （11）	38 （34）	3 （ 2）	1	14 （58）
カメムシ	コオイムシ					1 （ 1）
ハエ	ガガンボ科	（ 7）				
トビケラ	ニンギョウトビケラ科	4 （ 7）				
有肺	モノアラガイ	7 （ 3）	42 （28）			1 （ 1）
水棲	ヒラマキガイ科	3 （ 1）	3 （ 1）			1 （ 1）
ヒル	イシビル科	2				
小　計		16 （18）	45 （29）			3 （ 3）
個体数合計		28 （29）	83 （63）	3 （ 2）	2	17 （61）

＊（ ）内は2017調査

底生動物の調査結果から、トンボ等の発生水域について以下が推察される。

◆ 白鳥庭園におけるトンボの主要な発生水域は**清羽亭西**と**下の池**である。両水域とも浮葉植物や沈水植物、抽水植物が豊富に生育しており、それがトンボ幼虫の生息空間を多様にしている。

◆ **渓流部**は、流水性のニンギョウトビケラが確認されたことから、流水性底生動物の生息基盤は整っている。トンボではハグロトンボは生息する可能性がある。

◆ **中の池**のトンボ発生源としての機能は低いと考えられる。要因として、水生植物の生育が少ないため水域が単調であること、コイが高密度で生息することなどが考えられる。

渓流部で採集された
ニンギョウトビケラ科の巣

渓流部で採集された
シオカラトンボ幼虫

清羽亭西で採集された
ギンヤンマ幼虫

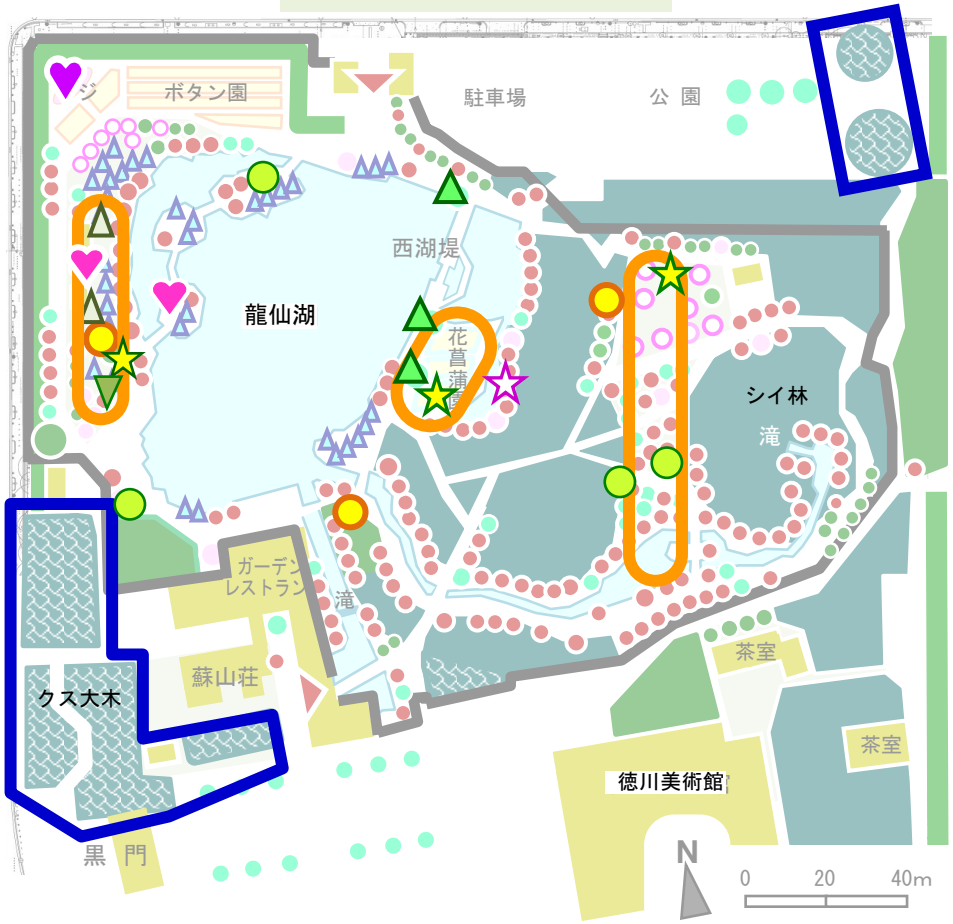
下の池で採集された底生動物
（ｼｵｶﾗﾄﾝﾎﾞ、ｺｼｱｷﾄﾝﾎﾞ、ｺｵｲﾑｼ等）

チョウの 食草・蜜源 マップ

白 鳥 庭 園

〈外 周〉は、食草・蜜源の帯。
高木層：□クスノキが主体で、
□マテバシイ等が混在。
生　垣：□アラカシ。
低木帯：○ツツジ。

徳 川 園



食　草（幼虫のエサ）

- クス、アラカシ、マテバシイ
- ミカン科（イヌザンショウ、カラタチ）
- ヤナギ
- ササ類
- ススキ
- フジ
- ネムノキ
- スミレ
- ホトトギス
- サルトリイバラ

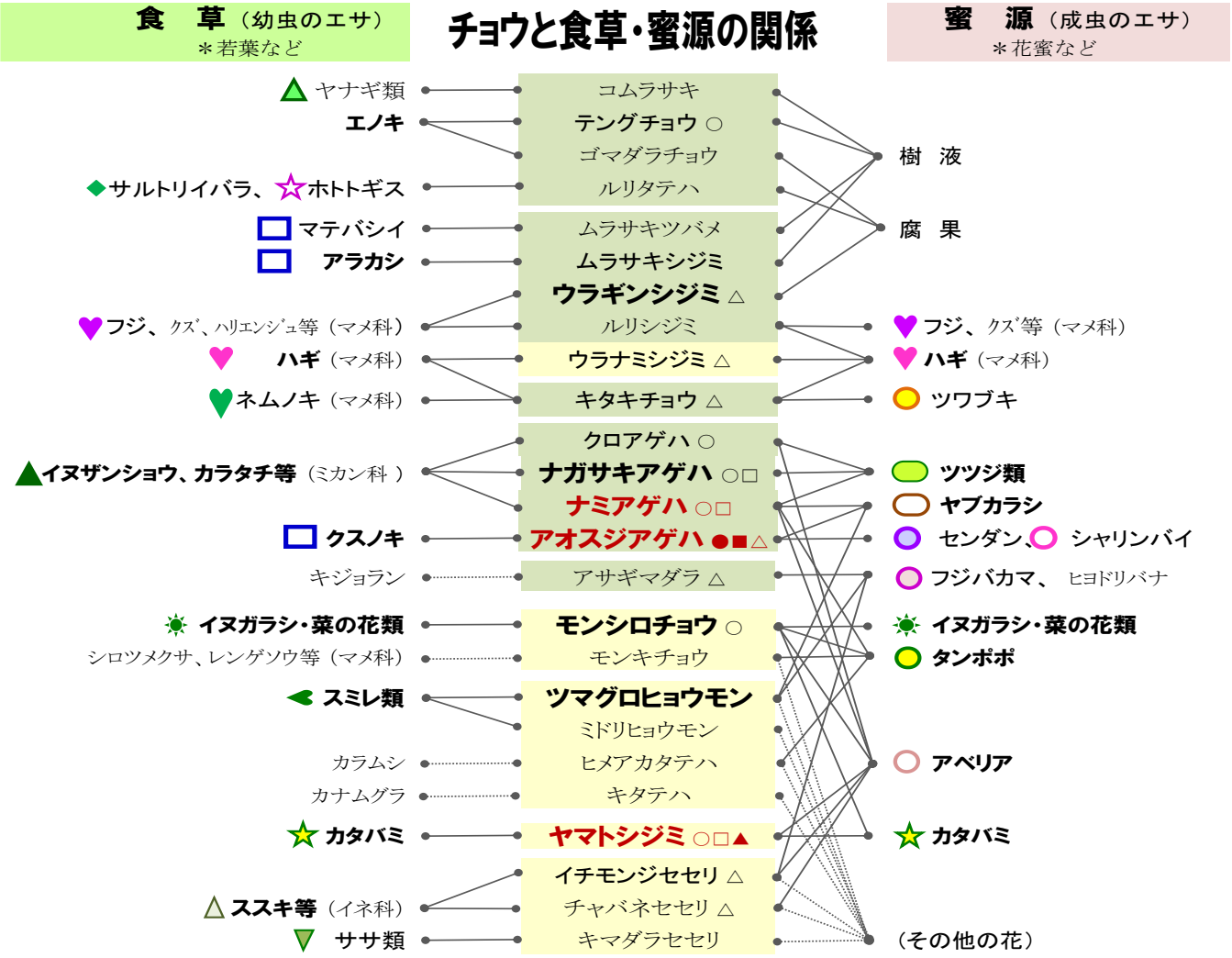
蜜　源（成虫のエサ）

- ハギ
- カタバミ
- イヌガラシ
- ツツジ類
- センダン
- シャリンバイ
- アベリア
- ヤブカラシ
- ツワブキ
- タンポポ
- フジバカマ

チョウの好きな陽だまり

チョウは、幼虫のエサとなる**食草**（草木の若葉）に卵を産みます。
成虫のエサとなる**蜜源**（花や樹液）にも訪れます。　夏場には、水辺の濡れた砂地で**水**を飲む光景も見られます。
また、樹林の縁などの**陽だまり**を好んで飛びます。

チョウと食草・蜜源の関係



＜食草・蜜源＞
太字　白鳥庭園にあり
細字　白鳥庭園になし

＜種名＞
森林性
草原性

極太　白鳥庭園でよく見かける
極太　同　割と見かける
太字　同　たまに見かける
細字　同　珍しい

○ 春によく見かける
□ 夏によく見かける
△ 秋によく見かける
●■▲ 特に多い

◇ 白鳥庭園

アオスジアゲハの食草＝クスノキは、外周をはじめ園内の至る所に見られる。ヤブカラシはツツジ等の低木に絡まるため嫌われ者だが、夏場の重要な蜜源だ。

ナミアゲハ等の食草＝イヌザンショウ、カラタチ（ミカン科）は、梅林の奥にある。春の主要な蜜源＝ツツジは、庭園外周や上の池西岸、大刈込など随所に密植されている。

ハギ、フジ、ネムノキ（マメ科）は、**ウラギンシジミ、ウラナミシジミ、キタキチョウ**などの食草や蜜源だが、園内の随所に見られる。

ヤマトシジミの食草＆蜜源＝カタバミは、芝生広場だけでなく植え込みの根元など園内随所に自生。

モンシロチョウの食草＆蜜源＝イヌガラシ（アブラナ科）は、芝生広場の水際に自生。

ツマグロヒョウモンの食草＝スミレ類は、芝生広場や梅林奥に自生。

◆ 徳 川 園

庭園に隣接して、クスノキの大木が林立している。

龍仙湖の周りは明るく、ヤナギ、カタバミ、ハギ、フジ等の食草が散見される。

東側のシイ林は暗く、食草は乏しい。山上（梅林）から虎の尾（中溜り）にかけて明るく開けた帯があり、蜜源のツツジもある。

４月末には**アゲハ類**（アオスジアゲハ、ナミアゲハ、ナガサキアゲハ、クロアゲハ）や**テングチョウ**、**ツマグロヒョウモン**、９月には**ヤマトシジミ**、**イチモンジセセリ**等が見られた。

白鳥庭園のチョウ（2018 調査）

白鳥庭園では、2018 年に 18 種のチョウが確認された（月２回、計 16 回調査）。
ヤマトシジミと**アオスジアゲハ**が双璧で、**ナミアゲハ**がこれに次ぐ。
アオスジアゲハは年間を通じてよく見られるが、ヤマトシジミは秋に爆発的に数を増やす（月１回調査の 2015 年もほぼ同傾向）。
黒いアゲハチョウ（**ナガサキアゲハ**、**クロアゲハ**）は、GW 頃に特によく見られた。
モンシロチョウは全般的に少なく、**ウラナミシジミ**、**ウラギンシジミ**は秋に多く見られる。
10 月には、渡りをする**アサギマダラ**が確認できた。
ツマグロヒョウモンは、近隣の緑地に比べ確認個体数は少なかった。

池の北・西側の園路は、外周植栽（食草・蜜源の帯）の林縁にあたるとともに池側が明るく開かれており、多くのチョウが見られる。

観察日		出現頻度	確認個体数合計	4月		5	6		7			8			9		10		11	食草	備考
				1日	29	20	3	17	1	15	29	12	18	26	9	23	7	21	18		
（天　気）				晴	晴	晴	晴	曇	晴	晴	曇	曇	晴	晴	曇	晴	晴	晴	晴		
（気温℃）				16	24	19	28	25	31	36	32	36	32	34	26	23	27	20	17		
確認個体数 合計			232	10	30	14	5	9	27	13	3	3	8	11	6	17	43	26	7		
森林性	**アオスジアゲハ**	81%	54		13	3		3	14	7	2	1	1	3	4		1	1	1	クスノキ	ヤブカラシ等で吸蜜。春～夏に特に多い。
	ナミアゲハ	63%	25	2	4	4		3	3	3			2	2		1	1			ミカン科	ツツジ等で吸蜜。
	ナガサキアゲハ	38%	14		6	1			4	1					1	1				同	同、　近年増加中。
	クロアゲハ	13%	5		4									1						同	同、　近年増加中。
	キタキチョウ	19%	4	1												1		2		ネムノキ	秋に見かける。
	ルリシジミ	6%	2						2											ハギ、フジ等	
	ウラギンシジミ	25%	11													4	4	2	1	フジ等	秋に見かける。エサは腐果や獣糞。
	ムラサキシジミ	19%	3	1								1		1						アラカシ	
	ゴマダラチョウ	6%	1										1							エノキ	
	テングチョウ	19%	6			4	1									1				エノキ	
	アサギマダラ	6%	1															1		キジョラン	秋に、渡りの途中で立ち寄り。
草原性	**モンシロチョウ**	25%	7	3		1	2	1												菜の花類	春に見かける。
	モンキチョウ	6%	1	1																ｼﾛﾂﾒｸｻ等	
	ツマグロヒョウモン	31%	8		1	1			1									4	1	スミレ類	
	ヤマトシジミ	94%	76	2	2		2	2	3	2	1	1	4	4	1	7	27	14	4	カタバミ	年中見かけるが、秋に特に多い。
	ウラナミシジミ	13%	6														5	1		ハギ	秋に見かける。
	イチモンジセセリ	13%	7													2	5			ススキ等	秋に見かける。
	チャバネセセリ	6%	1															1		同	

アオスジアゲハ

ナミアゲハ

キタキチョウ

モンシロチョウ

モンキチョウ

クロアゲハ

ナガサキアゲハ

ルリシジミ

ヤマトシジミ

草原性のチョウ

森林性のチョウ

ムラサキシジミ

ウラギンシジミ

ウラナミシジミ

イチモンジセセリ

テングチョウ

ゴマダラチョウ

アサギマダラ

ツマグロヒョウモン

チャバネセセリ

2018 調査で確認

by 河崎泰了、飯田康博ほか

過去の調査で確認

2011－18 撮影記録
by 飯田康博

ムラサキツバメ

ルリタテハ

ミドリヒョウモン

ヒメアカタテハ

キタテハ秋型

キマダラセセリ

徳川園のチョウ

徳川園は白鳥庭園と比べ、草地が少なく林縁部の長さも短い。
また、シイの樹高が高く暗い茂みになっており、チョウは確認しづらい。

４月末には、林の切れ目の明るい帯（山上広場～虎の尾中溜り）で、**アオスジアゲハ**、**ナミアゲハ**、**クロアゲハ**、**ナガサキアゲハ**のほか、**テングチョウ**、**ツマグロヒョウモン**が確認された。

９月中旬には、明るい草地など各所で**ヤマトシジミ**が確認できた他、**ナミアゲハ**、**アオスジアゲハ**、**イチモンジセセリ**が確認された。

６月中旬には、**ムラサキシジミ**も確認された。

＊徳川園の 2018 年調査は 2 回のみのため、白鳥庭園（月 2 回計 16 回調査）との比較は難しい。
白鳥庭園と同レベルの調査による比較評価が、今後の課題である。

森林性のチョウ

アオスジアゲハ

ナミアゲハ

クロアゲハ

ナガサキアゲハ

テングチョウ

ムラサキシジミ

草原性のチョウ

ヤマトシジミ

ツマグロヒョウモン

イチモンジセセリ

【調査＆写真 ： 河崎泰了、飯田康博】

名古屋のチョウ

市内８地区で、合計 40 種（森林性 26 種、草原性 14 種）のチョウが確認された（2013-14 調査 by 名古屋蝶の飛ぶまちプロジェクト）。
森林性、草原性ともに、**種数が最も多いのは東山くらしの森**で、**名城公園がこれに次いでいる。**
全地区で見られたチョウは、森林性 4 種（ナミアゲハ、アオスジアゲハ、キタキチョウ、ウラギンシジミ）、
草原性 4 種（モンシロチョウ、ヤマトシジミ、ツマグロヒョウモン、イチモンジセセリ）。

白鳥庭園（森林性のチョウ）： 面積が小規模（4ha 足らず）ながら、 アゲハ類をはじめ比較的多様な種がみられる。
（草原性のチョウ）： ヤマトシジミはよく見られるものの、 モンシロチョウは至って少なく、ツマグロヒョウモンも少なめ。

森林性のチョウ	出現地区数	白鳥庭園		熱田神宮	熱田神宮公園・白鳥公園	鶴舞公園	天白公園	山崎川・瑞穂公園	名城公園	東山くらしの森
調査年		'18年	2013年				'14年	2013年		
調査回数		16	9	9	9	9	10	11	9	8
面　積		4ha		20ha	19ha	24ha	26ha	27ha	60ha	49ha
確認種数		11	7	5	10	8	12	6	13	18
確認個体数（1回平均）		8	8	7	10	12	10	20	43	30
ナミアゲハ	**8**	○	□	□	●	■	■	■	■	■
アオスジアゲハ	**8**	■	■	■	■	■	○	■	■	■
ナガサキアゲハ	5	○		△	△				○	○
クロアゲハ	5	△			△	△	○	△		
ジャコウアゲハ	2						△		△	
カラスアゲハ	2						△		△	
ミヤマカラスアゲハ	1								△	
キタキチョウ	**8**	△	▲	△	△	●	■	●	△	■
ウラギンシジミ	**8**	△	▲	△	▲	△	△	△	△	■
ムラサキシジミ	3	△	△				△			○
ルリシジミ	2	△	△							△
アカシジミ	1									△
ミズイロオナガシジミ	1									△
ミドリヒョウモン	5		△		△		△	△		▲
テングチョウ	5	△				△	△		△	△
ゴマダラチョウ	4	△			△		△			△
ルリタテハ	3				△				△	○
コムラサキ	3					△			△	○
アカタテハ	2				△				▲	
アサギマダラ	2	△							△	
ヒオドシチョウ	1					△				
メスグロヒョウモン	1									△
コミスジ	1									△
ヒメジャノメ	2						△			○
サトキマダラヒカゲ	1									△

草原性のチョウ	出現地区数	白鳥庭園		熱田神宮	熱田神宮公園・白鳥公園	鶴舞公園	天白公園	山崎川・瑞穂公園	名城公園	東山くらしの森
調査年		'18年	2013年				'14年	2013年		
調査回数		16	9	9	9	9	10	11	9	8
面　積		4ha		20ha	19ha	24ha	26ha	27ha	60ha	49ha
確認種数		7	5	5	9	8	10	11	11	14
確認個体数（1回平均）		7	2	7	46	28	48	64	86	124
キアゲハ	1									●
モンシロチョウ	**8**	△	△	△	■	■	■	■	■	■
モンキチョウ	7	△			○	△	■	▲	▲	■
ヤマトシジミ	**8**	■	●	●	■	■	■	■	■	■
ウラナミシジミ	6	▲	△		△	●		●	▲	○
ツバメシジミ	5				△		●	△	△	●
ベニシジミ	4						○	■	■	■
ツマグロヒョウモン	**8**	△	○	▲	■	■	■	■	■	■
ヒメアカタテハ	7			△	△	○	○	●	△	●
キタテハ	4						△	△	△	○
イチモンジセセリ	**8**	▲	▲	△	▲	○	△	▲	●	●
チャバネセセリ	6	△			▲	▲	△	△		△
キマダラセセリ	1									△
ヒメウラナミジャノメ	2								△	●

出現頻度（確認のあった調査回数 ÷ 調査回数）
□ 65%以上（季節によらず割と見かける）
○ 35%以上
△ 35%未満（見かける季節が限られる）
１回あたり確認個体数（確認した個体数の合計 ÷ 確認のあった調査回
● 10個体以上
● 3個体以上
○ 3個体未満
2013調査 ： 「名古屋蝶の飛ぶまちプロジェクト2014報告書」による。
2018調査 ： P.31 参照。

白鳥庭園の水鳥

名古屋市全体 … 2014 年度に「繁殖期・越冬期」を過ごした水鳥は、下表の 62 種（他に、「渡り期」に通過した旅鳥 34 種あり）。
これを、市内 52 の観察地での出現率によって４タイプ（**シティ派**／**準シティ派**／**中間派**／**深窓派**）に区分した。
【注】全市の詳細は、「名古屋の野鳥マップ改訂版」 を参照（ http://blog.goo.ne.jp/monosashi758 の【17-1027】号）。

白鳥庭園では、「繁殖期・越冬期」に**定着**している水鳥は７**種**、定着はしていないが**確認実績**のあるもの７**種**（cf. P41）。
留鳥の定着５種（シティ派・準シティ派をほぼカバー）＋実績あり２種、 **渡り鳥**も定着２種＋実績あり５種 → **小粒ながら健闘！**

出現地区の割合	**各所で見かける** （河口部・河川・ため池）	**河口には少ない** （河川・ため池）	**ため池には少ない** （河口部・河川）	**河口部主体**
A シティ派 市内 9 割以上の地区で見かける	**カワウ**			：白鳥庭園に**定着**。 ：白鳥庭園での**確認実績あり**。 ：同 渡り期の**一時立寄り実績あり**。 灰色字 ： 白鳥庭園での確認実績なし。 留鳥 ／ 夏鳥 ／ 冬鳥。 ただし、 コチドリ ： 夏鳥だが越冬個体あり（留鳥化）。 アオアシシギ、セイタカシギ ： 旅鳥だが越冬個体あり。 ウミネコ ： 県下では冬鳥だが、市内では夏季に若鳥が飛来。 ★ 絶滅危惧種 ／ ☆ 準絶滅危惧種 ／
B 準シティ派 同 6 割以上	**アオサギ** (サギ) **コサギ** (サギ) **ダイサギ** (サギ) **カワセミ** **カイツブリ** **カルガモ** (カモ) **コガモ** (カモ) **マガモ** (カモ)			
C 中間派 同 2 割以上	ゴイサギ (サギ) ケリ (チドリ) コアジサシ★ (カモメ) ユリカモメ (カモメ) オオバン カンムリカイツブリ ホシハジロ (カモ) ハシビロガモ (カモ) キンクロハジロ (カモ) ヒドリガモ (カモ) オカヨシガモ (カモ) オナガガモ (カモ)	バン	イソシギ (シギ) ササゴイ (サギ) コチドリ (チドリ)	
D 深窓派 同 2 割未満	ハジロカイツブリ ヨシガモ (カモ) ミコアイサ (カモ)	イカルチドリ☆ (チドリ) コブハクチョウ※ (カモ) ヒクイナ★ チュウサギ☆ (サギ) アマサギ (サギ) ヨシゴイ★ (サギ) クサシギ (シギ) ヤマシギ☆ (シギ) カワアイサ (カモ) オシドリ (カモ) クイナ☆	タシギ (シギ) オオハシシギ (シギ) タゲリ (チドリ) セグロカモメ (カモメ)	シロチドリ☆ (チドリ) ダイゼン (チドリ) ハジロコチドリ (チドリ) ハマシギ☆ (シギ) ダイシャクシギ (シギ) アオアシシギ (シギ) セイタカシギ☆ (シギ) スズガモ (カモ) ホオジロガモ (カモ) ツクシガモ (カモ) ウミアイサ (カモ) トモエガモ★ (カモ) アメリカコガモ (カモ) アメリカヒドリ (カモ) カモメ (カモメ) オオセグロカモメ (カモメ) シロカモメ (カモメ) ズグロカモメ★ (カモメ) ウミネコ (カモメ)

白鳥庭園

留鳥

アオサギ

池の中でたたずむことが多いけど、飛び立つ姿は雄大。

カワウ

毎朝、編隊が堀川上空を北上。白鳥庭園にも時折やって来ます。

カルガモ

産卵してもカラスに食べられてしまうのが気の毒。

コサギ

歩きながら、水中の魚介類を食べます。

カワセミ

池端の岩の上で求愛ダンス（2009年12月）。残念ながら近年は、雄しか見かけません。

東部のため池でよく見かける鳥ですが、どこから遊びにきたのかな？
（2014年7月）

カイツブリ

カワセミ

西湖提東の山際で獲物を狙っていました。

茶字： 肉食系
緑字： 草食系

夏鳥

ササゴイ

冬鳥

ユリカモメ

群れで飛び回ったり泳いだり、橋の上で休憩したり、外周のクスノキをつつきに出かけたり…。忙しい鳥です。

マガモ

冬鳥ですが、一部が留鳥化しています。

冬には、マガモの群に混じってオナガガモ（下図の右端）やコガモがやってくることもあります。

【写真：飯田康博、加藤正嗣】

下記の鳥も
白鳥庭園への
飛来実績があります。
＜留鳥＞ ダイサギ
　　ゴイサギ
＜冬鳥＞ コガモ
　　マガモ

大夫堀（白鳥庭園の北隣）にたくさんいます。まれに出張して来ます。

キンクロハジロ♀
（潜水ｶﾞﾓ）

ホシハジロ♂
（潜水ｶﾞﾓ）

ヒドリガモ ♀♂

ハシビロガモ♀

徳川園

白鳥庭園の陸鳥

2014 年度に名古屋で「繁殖期・越冬期」を過ごした陸鳥は 79 種、「渡り期」の通過は 35 種。
うち、**白鳥庭園に定着**しているもの **19 種**、定着までは行かないが**確認実績**のあるもの **8 種**、渡り期等に**通過実績**のあるもの **9 種**（cf. P41）。

	低所（地面・草・低木）営巣			高所（樹上・樹洞・崖・人工物）営巣			旅鳥（渡り途上の通過）
飛翔して捕食	□チュウヒ □ハイイロチュウヒ □コチョウゲンボウ □コミミズク	・ヨタカ		□**ツバメ** □イワツバメ □コシアカツバメ □ミサゴ □チョウゲンボウ □ハヤブサ	・**モズ** ・オオタカ ・トビ ・ツミ ・ハイタカ ・ノスリ ・トラフズク	**ハンターたち** ■フクロウ	ジュウイチ、ツツドリ カッコウ ハチクマ、サシバ コノハズク オオコノハズク アオバズク アマツバメ ショウドウツバメ サンショウクイ オオムシクイ メボソムシクイ エゾムシクイ センダイムシクイ コヨシキリ コムクドリ マミジロ カラアカハラ ヒレンジャク クロツグミ マミチャジナイ コマドリ、コルリ ノゴマ ノビタキ、エゾビタキ サメビタキ コサメビタキ ムギマキ オジロビタキ カヤクグリ ニュウナイスズメ コイカル
樹上採食 （樹冠・樹幹で採食、枝からの飛びつきを含む）		・ベニマシコ	■ホトトギス	**樹上好き**	・**ヒヨドリ** ■アカゲラ ■アオゲラ ■アオバト ■ヒガラ ■キレンジャク ・ウソ ・マヒワ	■**メジロ** ■**シジュウカラ** ■**コゲラ** ■ヤマガラ ■エナガ ■キビタキ ■オオルリ ■サンコウチョウ	
ヤブ採食		・**ウグイス**	■ヤブサメ ■ソウシチョウ				
地上採食 （草地・ヨシ原、農地、裸地、林床）	□ヒバリ □オオヨシキリ □セッカ □**ツグミ** □オオジュリン □ツリスガラ □タヒバリ □ホオアカ	・キジ ・ホオジロ ・**アオジ** ・カシラダカ ・アカハラ ・ビンズイ ・ミヤマホオジロ	■コジュケイ ■ヤマドリ ■ルリビタキ ■クロジ ・ミソサザイ **地面好き**	□**スズメ** □**ムクドリ** □**ドバト** □**ハクセキレイ** □**セグロセキレイ** □キセキレイ □イソヒヨドリ ・アリスイ	・**ハシボソガラス** ・**ハシブトガラス** ・**キジバト** ・**カワラヒワ** ・**ジョウビタキ** ・**シロハラ** ・シメ ・アトリ	■トラツグミ ■イカル ■カケス **樹上地面往復**	

**　**：**白鳥庭園に定着。**　**　**：白鳥庭園で過去に**確認実績**あり。　**　**：白鳥庭園で渡り期の**通過（一時立寄）実績**あり。

太字：シティ派・準シティ派（市内主要緑地での出現率が 6 割以上）。　灰色字：白鳥庭園での確認実績なし。

□：開けた場所好き。　■：樹林好き。　▪：双方 or 境界好き。　　**留鳥** ／ **漂鳥** ／ ***夏鳥*** ／ ***冬鳥***。

地面好き：白鳥庭園に少ないタイプ
樹上地面往復：市街地に多いタイプ

生息環境は次を参考に区分した。　モニタリングサイト 1000 で見えてきた日本の森林性鳥類の分布状況（植田睦之ほか、日本鳥学会誌 60(1):19–34、2011）
Javian Database 2012.1010 版（http://www.bird-research.jp/ ＞ Javian Database ）　原色日本野鳥生態図鑑（中村登流・中村雅彦、保育社、1995）

野 鳥 の 居 場 所

水辺好きの鳥、地べた好きの鳥、樹木好きの鳥…、いろんな鳥がいます。
白鳥庭園には、水辺好きや樹木好きの鳥は結構いますが、
草地好きの鳥は少ないようです。

カラスの行水

◆池や池端 （cf. P.2）

魚介類や水草を食べる**水鳥**、
水辺の地面で虫を食べる**セキレイ類**のほか、
いろんな鳥が水飲みや水浴びにやって来ます。

スズメの行水スポット（汐入の庭）
カラスの行水スポット（茶庭の西）
ヒヨドリの行水スポット（雌滝の前）

ツバメの親子

◆茂み下の地面

冬には、茂み（外周の生垣など）の下で**アオジ**や**シロハラ**を見かけます。
アオジは地面に落ちている草木の種子、
シロハラは落ち葉下の虫を食べます。

◆常夜灯広場

ドバト（野生化した伝書バト）が地面を歩きながら種子を食べています。
夏には縁台下で日差しを避けています。

◆芝生広場

ムクドリ（留鳥）や**ツグミ**（冬鳥）が地面の虫を食べます。

ムクドリ

◆樹　林

樹上の虫を食べる鳥（**シジュウカラ**、**コゲラ**等）
果実や花蜜が好きな鳥（**ヒヨドリ**、**メジロ**等）
休憩所として利用する鳥、　…　。

◆ヤブの中

銀閣寺垣（主園路の北東側）や大刈込（同南西側）は、
ウグイスなど冬場の鳥の隠れ場です。（*cf.　P.6*）
梅林との間を行き来したり、茂みに潜り込んだり…。

【写真：飯田康博、加藤正嗣】

白 鳥 庭 園

ヒヨドリ（留鳥、if）
センリョウ、マンリョウ、クロガネモチ、ヒサカキ、クス、センダン…、いろんな実を食べて種子をまき散らします。

シジュウカラ（留鳥、if）
マツなどにつく虫を食べます。春～夏にツーピー、ツツピとさえずります。

メジロ（留鳥、if）
花蜜や果汁が好物（秋は柿、冬はサザンカ、春は梅・桜、…）。白鳥庭園では、夏は見かけません。

コゲラ（留鳥、i）
一番小さなキツツキ。

ウグイス（漂鳥、i）
夏は山地で過ごし、冬は市街地へ出稼ぎする漂鳥。
冬場は、ヤブの中で虫を食べています。

マツに群れてアブラムシを食べていました。
白鳥庭園では、冬しかみかけません。

エナガ（留鳥、i）

モズ（留鳥、i）

オオルリ（夏鳥／旅鳥、i）
4－5月、渡りの途中で休憩。運がイイと、渓流の樹上で囀りが聞こえます。

キビタキ（夏鳥／旅鳥、i）
4－5月、渡りの途中で休憩。

樹上で食事

徳　川　園

ヒヨドリ（留鳥、if）
木の実とともに、梅や桜などの花蜜も好き。
繁殖期には虫を食べる。

シジュウカラ（留鳥、if）
胸のネクタイが目印。

メジロ（留鳥、if）
庭先の梅や桜、椿などによくやってくるウグイス色の鳥。
本当のウグイスは、くすんだ色で滅多に人前には姿を見せません。

i 昆虫食 ／ c 肉食･魚食 ／ o 雑食
f 果実食 ／ s 種子食

繁殖期には虫を食べ、
越冬期には果実や種子を食べる鳥が多いようです。

地上で食事

ハクセキレイ（留鳥、i）／ **セグロセキレイ**（留鳥、i）／ **キセキレイ**（漂鳥、i）
水辺近くの地面で虫を食べます。汐入の庭などでちょこちょこと歩く姿を見かけます。

ハクセキレイ（留鳥、i） 虫を食事中です。

ジョウビタキ雌・雄（冬鳥、if）
雌雄別々に縄張り。枝先から舞い降り地面の虫を食べますが、木の実も食べます。

ツグミ（冬鳥、if）
主に芝生広場など地面で虫を食べますが、木の実も食べます。

ムクドリ（留鳥、if）

ムクドリ（留鳥、if）

＊これらのほか
ハシブトガラス（留鳥、o）
ハシボソガラス（留鳥、o）
ドバト（留鳥、fs）
キジバト（留鳥、fs）
スズメ（留鳥、is）
ツバメ(夏鳥、i)も定着。

怪しい眼差し…

シロハラ（冬鳥、i）
落ち葉下の虫を食べます。

ドバト（留鳥、fs）

キジバト（留鳥、fs）

シメ、イカル（冬鳥、s）
木の実のほか地面で種子を食べる。

ルリビタキ（冬鳥、i）
梅林ので地面の虫を…。

アオジ（冬鳥、is）
茂みの足元で草木の種子を食べます。

スズメ（留鳥、is）

＊これらのほか
ツバメ(夏鳥、i)も
みられます。

【写真：飯田康博、川島大次】

野鳥観察＠白鳥庭園

白鳥庭園には、どんな野鳥が定着しているのだろう？　2008 年以降続けられている撮影記録を活用して、評価してみた。

水　鳥

- 繁殖期・越冬期に**定着** … 7 種
  - 留鳥：カワウ、カルガモ、アオサギ、コサギ、カワセミ
  - 夏鳥：ササゴイ
  - 冬鳥：ユリカモメ
- 確認実績あり（定着にはいまだし）… 7 種
- 通過等の実績あり　… 1 種

陸　鳥

- 繁殖期・越冬期に**定着** … 19 種
  - 留鳥：スズメ、ムクドリ、ヒヨドリなど 12 種
  - 夏鳥：ツバメ
  - 漂鳥：ウグイス、キセキレイ
  - 冬鳥：ツグミ、シロハラ、ジョウビタキ、アオジ
- 確認実績あり（定着にはいまだし）… 8 種
- 通過等の実績あり　… 9 種

【注】 2008～2018年の撮影記録をまとめたもの
（by 飯田康博）

- ● **繁殖期・越冬期ともに**撮影記録あり
- ◎ **繁殖期のみ**撮影記録あり
- ○ **越冬期のみ**撮影記録あり
- ＊ その他の時期（**渡り期等**）に撮影記録あり
- △ 撮影していないが確認あり

陸鳥のタイプ

- □ 開けた場所好き（草地・裸地、農耕地、水辺など）
- • 双方or境界好き（草地等と樹林の双方を含む）
- ■ 樹林好き

水　鳥		年	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	◆定着 7種　◇実績あり 7種　＊通過等 1種	
		種数	5	6	5	9	8	5	6	8	9	9	8		
留鳥		カワウ	●	◎	●	◎	◎	◎	◎	◎	●	◎	○	◆定着	
		カルガモ	●	●	●	●	●	●	◎	●	●	●	●	◆定着	
		カワセミ	○	○	●	○	○	●	○	○	●	●	●	◆定着	・オスのみ。メスは大夫堀（北隣）に
		アオサギ		＊		○	○	＊	●	○	◎	◎	◎	◆定着	・堀川水門上（東隣）に並ぶことも…
		コサギ	○	○	○	○	●	●	●	●	●	◎	○	◆定着	
		ダイサギ	＊						＊		○		＊	◇実績あり	
		ゴイサギ				○					＊		◎	◇実績あり	
夏鳥		ササゴイ		○		◎		＊		◎	◎	◎	◎	◆定着	
冬鳥		ユリカモメ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	◆定着	・大夫堀や堀川に多数
		コガモ	＊	＊								○		◇実績あり	
		マガモ	＊		＊	○	○					＊		◇実績あり	
		キンクロハジロ					○			＊	○			◇実績あり	・大夫堀や堀川に多数
		ホシハジロ								○		＊	＊	◇実績あり	・大夫堀や堀川に多数
		ハシビロガモ										○		◇実績あり	・大夫堀や堀川に多数
		ヒドリガモ											＊	＊通過実績あり	

陸　鳥		年	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	◆定着 19種　◇実績あり 8種　＊通過等 9種	
		種数	15	11	19	21	18	21	20	19	20	19	20		
留鳥	□	スズメ	●	◎	◎	●	●	◎	◎	◎	●	○	●	◆定着	
漂鳥	□	ムクドリ		◎	●	◎	◎	◎	△	●	◎	◎	●	◆定着	
	□	ハクセキレイ	○	○	○	○	●	○	○	●	●	●	●	◆定着	
	□	セグロセキレイ	○	●	○	○	●	●	●	●	●	●	●	◆定着	
	□	キセキレイ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	◆定着	
	□	ドバト	◎	○	○	◎	○	△	△	△	◎	○	●	◆定着	（撮影以外でも確認）
	•	キジバト			○	●	○	△	△	△	◎	○	●	◆定着	（撮影以外でも確認）
	•	ハシボソガラス			◎	○	○	△	△	△	◎	●	●	◆定着	（撮影以外でも確認）
	•	ハシブトガラス	＊			○	○	●	○	◎	○	○	○	◆定着	（撮影以外でも確認）
	•	ヒヨドリ	◎	○	●	○	●	●	●	●	●	●	●	◆定着	
	•	ウグイス				＊		＊	＊	△	△	○	○	◆定着	（撮影以外でも確認、冬–春）　・低木の中（正門生垣～大刈込）
	•	カワラヒワ	＊	◎	◎	○	◎					＊	◎	◇実績あり	
	•	モズ	○		○	○	＊			＊	＊	＊	＊	◇実績あり	・以前餌付をする人がいた
	•	オオタカ									＊			＊通過実績あり	
	■	メジロ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	◆定着	・春（梅・桜）、秋（豆柿）、冬（山茶花）
	■	シジュウカラ	○	◎	○	●	●	●	●	●	●	●	●	◆定着	・松につく虫などを捕食
	■	コゲラ	○	＊		◎	＊	●	●	●	＊	＊	○	◆定着	・木につく虫などを捕食
	■	ヤマガラ			○	○	＊	○						◇実績あり	・汐入横エゴノキを築山に移植後、見かけない
	■	エナガ									○			◇実績あり	
	■	イカル	○		＊								○	◇実績あり	
夏鳥	□	ツバメ				◎	◎	◎	◎	◎	△	△	◎	◆定着	
	■	キビタキ				＊				＊		＊	＊	＊通過実績あり	・築山
	■	オオルリ	＊			＊		＊	＊			＊		＊通過実績あり	・渓流部（滝～下流）の樹上でさえずり
冬鳥	□	ツグミ	○	＊	○	○	○	○	○	○	○	○	○	◆定着	
	•	シロハラ	○	＊	○	○	○	○	○	○	○	○	○	◆定着	
	•	ジョウビタキ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	◆定着	・雄雌が別個に縄張して巡回（清羽亭南～築山）
	•	アオジ	○	＊	○			○	○	○	○	○		◆定着	・生垣の下（堀川側の北門近く）
	•	シ　メ			○	○		○	○		○			◇実績あり	
	•	アトリ				＊						＊		＊通過実績あり	
	■	ルリビタキ							○			○		◇実績あり	・梅林（築山東）の下
	■	ヒガラ					○	●						◇実績あり	・築山でシジュウカラと同行
	■	キレンジャク				＊								＊通過実績あり	・水琴窟付近の樹上で群れで行動
	■	ヒレンジャク				＊								＊通過実績あり	・　同上
旅鳥	■	サメビタキ						＊					＊	＊通過実績あり	・モミの樹上（竹林東）で飛びながら虫を捕食
	■	ｾﾝﾀﾞｲﾑｼｸｲ										＊		＊通過実績あり	・枝垂桜（竹林東）
	□	ノゴマ					＊							＊通過実績あり	

京都府城陽市・府立木津川運動公園（まだごく若～い、草地主体の公園）

【参考資料】 白鳥庭園 VS 五里五里の丘

京都（五条大橋）から五里、奈良（東大寺）からも五里という公園。
山砂利採取場跡地を整備し、2014 年にオープン。　面積 11ha。

- オギなどイネ科主体の水辺再生（カヤネズミの生息環境再生）。
- 斜面の草地は虎刈り（ヤマトシジミが群れ飛び、足元からバッタが飛び出す）。
- 樹林は、地域で採取した種から育てて府民参加で植樹。
  （エノキ・ムクノキ／コナラ・クヌギ／カエデ／アカマツ／シイ・カシ）
- 北西部は、スポーツやレクリエーションの広場。
- 東部は、未開園地区。

「京都府立木津川運動公園指標生物調査報告書（by 全国カヤネズミネットワーク 畠佐代子）」のデータを参考にして、白鳥庭園との比較を行いました。

＊*報告書は、公園センターで閲覧できます。*

池を草地が取り巻き、その外側に若い樹林。背後の小山は浄水場。

白鳥庭園

五里五里の丘

まだ若い樹林。

周辺には今も採取場が残っている。

白鳥庭園 2016.4-10	トンボ（生息環境別）	五里五里の丘 2016.4-11
	1．水　面	
◎	ギンヤンマ	◎
◎	シオカラトンボ	◎
◎	ウスバキトンボ	◎
◎	ショウジョウトンボ	○
○	オオヤマトンボ	
◎	タイワンウチワヤンマ	
	2．水面・水生植物	
◎	チョウトンボ	
○	アジアイトトンボ	
◎	クロイトトンボ	
◎	アオモンイトトンボ	◎
◎	ムスジイトトンボ	
	ホソミオツネントンボ	○
	オツネントンボ	○
	3．水面・樹林	
◎	コシアキトンボ	○
○	オオシオカラトンボ	
○	オオアオイトトンボ	○
◎	クロスジギンヤンマ	
	4．水面・抽水植物・樹林	
	マルタンヤンマ等	
	5．湿　地	
○	アキアカネ	◎
○	ナツアカネ	◎
△	ノシメトンボ	
○	コノシメトンボ	
	ハラビロトンボ	○
	6．湿地・樹林	
○	リスアカネ	
	マユタテアカネ等	
	7．流　水	
	オニヤンマ	○
△	ハグロトンボ	○

◎　確認（多い）
○　確認
△　過去に確認記録あり

白鳥庭園 2018.4-11	チョウ	五里五里の丘 2016.4-11
	森林性のチョウ	
◎	ナミアゲハ	
◎	アオスジアゲハ	
○	クロアゲハ	
○	ナガサキアゲハ	
○	キタキチョウ	◎
○	ルリシジミ	
○	ウラギンシジミ	
○	ムラサキシジミ	
△	ムラサキツバメ	
○	テングチョウ	
○	ゴマダラチョウ	
	コムラサキ	○
	コミスジ	○
△	ルリタテハ	
△	ミドリヒョウモン	
○	アサギマダラ	
△	キマダラセセリ	
	草原性のチョウ	
	キアゲハ	○
○	モンシロチョウ	◎
○	モンキチョウ	◎
◎	ヤマトシジミ	◎
	ベニシジミ	○
	ツバメシジミ	◎
○	ウラナミシジミ	○
○	ツマグロヒョウモン	○
△	ヒメアカタテハ	○
△	キタテハ	
	ヒメジャノメ	○
	ヒメウラナミジャノメ	◎
○	イチモンジセセリ	○
○	チャバネセセリ	○

◎　確認（多い）
○　確認
△　過去に確認記録あり

五里五里の丘は、白鳥庭園と環境が随分違います。
環境の違いが生物相にどう反映するのか？
そんな興味から、比較してみました。

池の周りには**草地が広がり、樹林は**まだ**ごく若い。**
池には背の高い**抽水植物が繁茂**する反面、
浮葉植物は乏しい。

◇面積　白鳥庭園 3.7ha ＜ 五里五里 11ha
◇池　白鳥庭園 0.5ha ＞ 五里五里 0.2ha

チョウ

◆確認種数　白鳥庭園 **18** 種 ≒ 五里五里 **16** 種

＜**森林性**のチョウ＞　**白鳥庭園 11** 種 ＞ 五里五里 **3** 種
＜**草原性**のチョウ＞　白鳥庭園 **7** 種 ＜ **五里五里 13** 種

森林性のチョウは、白鳥庭園の方が圧倒的に多い。
特にアゲハ類が、五里五里の丘では少ない（キアゲハのみ）。
草原性のチョウは、五里五里の丘の方がかなり多い。

トンボ

◆確認種数　**白鳥庭園 19** 種 ＞ 五里五里 **14** 種

＜1．水面 好き＞　**白鳥庭園 6** 種 ＞ 五里五里 **4** 種
＜2．水面・水生植物 好き＞　**白鳥庭園 5** 種 ＞ 五里五里 **3** 種
＜3．水面・樹林 好き＞　**白鳥庭園 4** 種 ＞ 五里五里 **2** 種
＜5．湿地 好き＞　白鳥庭園 **3** 種 ＝ 五里五里 **3** 種
＜6．湿地・樹林 好き＞　白鳥庭園 **1** 種 ≒ 五里五里 **0** 種
＜7．流水 好き＞　白鳥庭園 **0** 種 ＜ **五里五里 2** 種

五里五里の丘では、水生植物に依存するイトトンボ類や樹林を好む種がやや少ない。オギなど抽水植物は繁茂しているものの、浮葉植物が乏しいことが影響していると思われる。
湿地を好むアカトンボ類は、種数では白鳥庭園の方がやや多いものの、個体数では、五里五里の方が多い。

白鳥庭園 2018.1−12	水　鳥	五里五里の丘 2016.4−17.1
	水 辺 好 き	
◎	カルガモ R	
○	カワウ R	○
○	アオサギ R	○
△	ダイサギ R	○
○	コサギ R	
○	ゴイサギ R	
○	カワセミ R	
	カイツブリ R	◎
	バ ン R	◎
	イカルチドリ R	○
○	ササゴイ S	
◎	ユリカモメ W	
△	コガモ W	◎
△	マガモ W	
△	キンクロハジロ W	
△	ホシハジロ W	
△	ハシビロガモ W	○
＊	**ヒドリガモ** W	◎
	オカヨシガモ W	◎
	オオバン W	○

◎ 「繁殖期・越冬期」に確認あり（多い）
○ 同　確認あり
△ 同　過去に確認記録あり
＊ 「渡り期」の通過記録あり

R：留 鳥
H：漂 鳥
S：夏 鳥
W：冬 鳥
T：旅 鳥

白鳥庭園 2018.1−12	陸　鳥	五里五里の丘 2016.4−17.1
	樹上好き（樹上採食・高所営巣）	
◎	ヒヨドリ R	○
○	メジロ R	○
○	シジュウカラ R	○
○	コゲラ R	
△	エナガ R	◎
△	ヤマガラ R	
＊	キビタキ S	
＊	オオルリ S	
△	ヒガラ W	
	樹上と地上を往復（地上採食・高所営巣）	
◎	スズメ R	◎
○	カワラヒワ R	○
◎	ムクドリ R	◎
◎	ドバト R	◎
◎	キジバト R	○
◎	ハシボソガラス R	○
◎	ハシブトガラス R	○
◎	ハクセキレイ R	◎
◎	セグロセキレイ R	○
○	キセキレイ H	
○	イカル H	
○	ジョウビタキ W	○
○	シロハラ W	
△	シ メ W	
＊	アトリ W	

白鳥庭園 2018.1−12	陸　鳥	五里五里の丘 2016.4−17.1
	地面・ヤブ好き（低所採食・低所営巣）	
	ヒバリ R	◎
	ホオジロ R	○
	キ ジ R	○
○	ウグイス H	○
	ビンズイ H	＊
	オオヨシキリ S	○
○	ツグミ W	◎
△	アオジ W	
△	ルリビタキ W	
	カシラダカ W	＊
	飛翔して捕食	
△	モ ズ R	◎
	ト ビ R	○
○	ツバメ S	◎
	コシアカツバメ S	◎

	旅鳥の通過（渡り途上の立寄り）	
＊	センダイムシクイ T	
＊	ノゴマ T	
＊	サメビタキ T	
＊	キレンジャク T	
＊	ヒレンジャク T	

（注）陸鳥のタイプ分けは、P.37 参照。

水　鳥

◆確認種数（繁殖期・越冬期）　白鳥庭園**8**種 ＜ **五里五里** 12 種

留鳥についてはほぼ同等だが、
冬鳥（カモ類）は五里五里の丘の方が多様。

＜留　鳥＞　白鳥庭園**6**種 ＝ 五里五里**6**種
群れは…　白鳥庭園はカルガモ。
五里五里の丘はカイツブリ、バン。

＜渡り鳥＞　白鳥庭園**2**種 ＜ **五里五里5**種
群れは…　白鳥庭園はユリカモメ。
五里五里の丘はコガモ、ヒドリガモ、オカヨシガモ。

陸　鳥

◆確認種数（繁殖期・越冬期）　白鳥庭園 20 種 ＜ **五里五里** 24 種

＜地面・ヤブ好き＞　白鳥庭園**2**種 ＜ **五里五里6**種
＜飛翔して捕食＞　白鳥庭園**1**種 ＜ **五里五里4**種
＜樹 上 好 き＞　白鳥庭園**4**種 ＝ 五里五里**4**種
＜樹上と地上を往復＞　**白鳥庭園** 13 種 ＞ 五里五里 10 種

草地の乏しい白鳥庭園では、
草地好きの種（ヒバリ、ホオジロ、キジ、オオヨシキリ）が欠けている。
草地などの上空を飛翔して捕食するタイプも少ない。
樹上と地上往復タイプは、白鳥庭園の方がやや多様。

改　善 2017-18

提案を受け、下記のような取り組みが行われました。

無農薬の庭園管理 の 継続

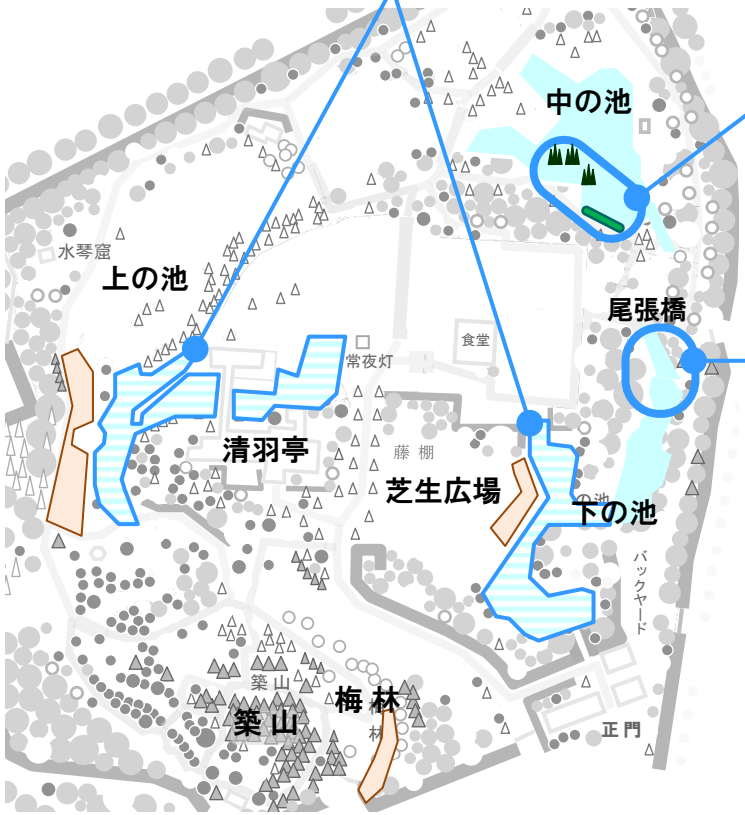
春～秋： 害虫を捕殺する
（割ばしで毛虫をつまむ等）

冬　： 越冬繭や卵を除去
（竹ベラで削り取る等）

池清掃法の改善（清羽亭周辺、下の池）

◆池底清掃で出た藻類をすぐに処分せず、水際に 1～2 日間放置することでヤゴが池に戻れるようにする。

→ 底生生物調査により、ヤゴの生息を確認。



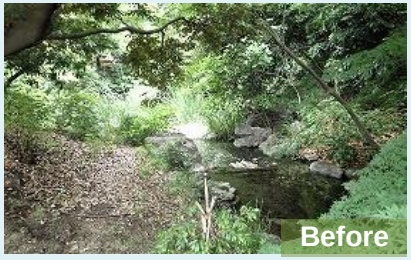
鯉除け柵の設置（中の池）

◆岸近くに鯉除けの竹しがらみを設置（2018 年 1 月）。

→ トンボの産卵は確認されたが、ヤゴの増加は確認できなかった（cf. P.28 底生生物調査）。

→ 池の水の増水時に鯉の侵入がたまにみられたので、来シーズンの産卵に合わせて高さを調整する。

下の池（尾張橋南）を観察スポットに



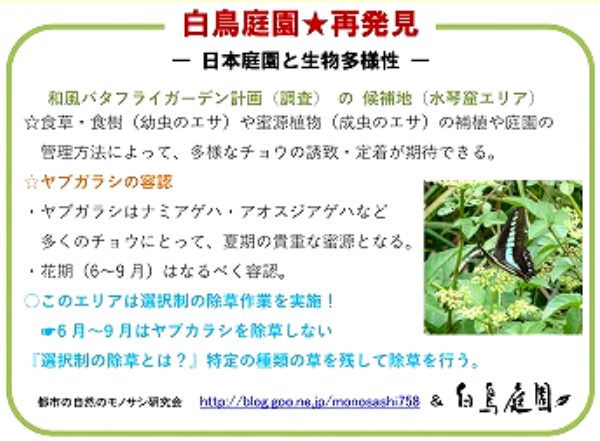
下の池北東部（尾張橋南）は、トンボのヤゴの成育場所。
観察しやすいように、トンボの邪魔をしない範囲で整備。

◆樹木の剪定（下枝、枯枝、支障枝）
◆園路整備（水際への小径、飛び石設置、土留め）
◆流入部のよどみ解消のため、抽水植物、浮葉植物を整理。

ヤブカラシの容認（上の池西岸の低木帯）

◆チョウの“夏の蜜源”確保のため、ツツジ等の低木帯にからまるヤブカラシの除草を、開花期（6～9 月）については抑制した。

→ 2017 年夏には効果が見られたが、2018 年の夏は開花、蝶の飛来ともに期待ほどではなかった（猛暑の影響か？）。
ただし大刈込のヤブカラシでは、比較的多数の飛来がみられた。



選択制の除草（ヤブカラシの容認）についての説明看板 →

【写真：川島大次、松沢孝晋】

食草の補植（梅林）

◆イヌザンショウ、サルトリイバラ、ナノハナを植えつけた。（2017 年 10 月）

イヌザンショウ： アゲハ類の食草
サルトリイバラ： ルリタテハの食草
ナノハナ： モンシロチョウの食草

→ アゲハ類は、2018 年 4～7 月にコンスタントに確認された。
→ ルリタテハは、確認されなかった。今後を見守りたい。

→ モンシロチョウは確認されたが、他の場所なみの個体数にとどまった。ただし来園者には好評（cf. P5 左下）。
ナノハナは、花期終了後すぐ刈り取られてしまったため、食草（産卵・発生場所）としての役割が果たせなかった。管理方法の見直しが必要。

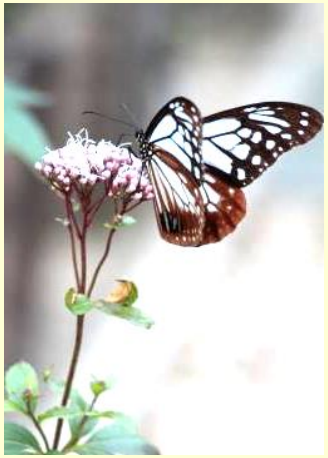
→ 里地ゾーンにふさわしい年間の植栽計画立案（アブラナ科、ソバ等）が必要。

秋の七草ゾーンづくり（芝生広場）

◆ススキ、カワラナデシコ、オミナエシ、フジバカマを、芝生広場に植えつけた（2017 年 8 月）。

ススキ： イチモンジセセリ等の食草
フジバカマ： アサギマダラ、ツマグロヒョウモンの蜜源
ナデシコ、オミナエシ： 蜜源

→ 2018 年の夏は、開花、蝶の飛来ともに 期待ほどではなかった（猛暑の影響？）。 来年度に期待したい。
→ 正門前（鉢植え）のフジバカマには、アサギマダラが飛来し、ツマグロヒョウモンなど他の蝶も確認された。
フジバカマは蝶の誘致に効果的なので補植を引続き検討。



→ 芝生広場の水際にはイヌガラシ（モンシロチョウの食草）が自生。
補植を期待するも、苗が入手できず思案中。

身近な自然 …
どう 評価すればイイの？
どう つきあえばイイの？
目安（モノサシ）を
手探りしています。

調査報告書 の バックナンバー

都市の自然のモノサシ研究会 が まとめた 調査報告書は、
下記のブログでご覧いただくことができます。

http://blog.goo.ne.jp/monosashi758

モノサシなごや 検索

年度毎の報告書

姉妹編です。

【18－0304】号　2017 報告書
深読み★白鳥庭園 ― 日本庭園と生物多様性 第 2 弾 ―

【17－0303】号　2016 報告書
白鳥庭園★再発見 ― 日本庭園と生物多様性 ―

【16－0213】号　2015 報告書
都市の植生活★四つの健康チェック

【15－0202】号　2014 報告書
健康な植生活って、何？

【14－0223】号　2013 報告書
都市の緑は B 級グルメ

いきもの目線 VS まちづくり目線
目線による評価の違いを徹底比較！

【13－0317】号　2012 報告書
図鑑：都市の緑の生え方タイプ

丘陵、河原、ため池、社寺林、公園、…
名古屋市内 160 か所を**撮りまくり**！

個別テーマの調査

都心の**久屋大通**にも
15 種の野鳥がいる！

【17－1027】号　**名古屋の野鳥マップ（改訂版）**

【16－1201】号　**むしる？むしらない？**
― 市民 308 名に聞きました ―

【16－0203】号　**どんな緑が好き？**
ワイルド VS マイルド
― 市民 213 名に聞きました ―

【15－1224】号　**名大キャンパスマスタープランへの提案**

意外な穴場！
高層建築の裏に**トトロの森**。

お問い合わせは…　**monosashi758@gmail.com**

① 造園や生物調査が専門の者／ ② 専門外ながら生物とかかわらざるをえない者（土木・建築など）／ ③ 素人なりに身近な自然とのつきあい方に戸惑っている者…の混成部隊です。　**いきもの目線とまちづくり目線、素人目線と玄人目線をつなぎたい！**と願っています。